

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Visual Basicは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。

Windows、OS/2は米国Microsoft Corporationの商標です。

漢字Talk7、ことえりは米国Apple Computer, Inc.の登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

必ずお守り下さい

正しく安全に お使いいただくために

弊社製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

ご使用前にこの取り扱い説明書をよくお読みになり、内容を理解してからお使いください。

表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明します。



この表示の欄は「死亡または重傷等を負う可能性が想定され、かつ危険発生時の警告の緊急性が高い」内容です。



この表示の欄は「死亡または重傷等を負う可能性が想定される」内容です。



この表示の欄は「障害を負う可能性または物質的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するためにも、次の事柄は必ずお守りください。



警告

分解しない！改造しない！



内部の点検、調整はお買上げの販売店にお任せ下さい。ショートや発熱により感電や火災を起こす恐れがあります。

表示された電源電圧以外で使
わない！



感電や火災をおこす恐れがあり
ます。

煙が出る！変な臭いがする！



すぐに電源を切り、差し込みプ
ラグをコンセントから抜いて下
さい。

異物を入れない！



感電や火災をおこす恐れがあり
ます。

落とした！壊れた！



すぐに電源を切り、差し込みプ
ラグをコンセントから抜いて下
さい。

電源コードを傷つけない！

加工しない！



重い物を乗せたり無理に曲げると感電や火災をおこす恐れがあります。



注意

幼児の手の届く所に置かない！



怪我等の原因になります。

強い衝撃を与えない！



ハンマー等で叩いたり、釘等を打ち込まないで下さい。発火、破裂の原因になります。

長期間使わない！



差し込みプラグをコンセントから抜いて下さい。

濡らさない！



雨や水、コーヒー等の液体で濡らさないで下さい。また濡れた手で操作しないで下さい。ショートや発熱による感電や製品の故障を起こす恐れがあります。

特に、シンナー、ベンジン等揮発性の液体は絶対にかけないで下さい。

直射日光・高温・多湿の場所で保管しない！



高温、多湿、直射日光の当たる所、ほこりの多い所での使用は避けて下さい。機器の故障の原因になります。

製品保証について

- 1 . 製品をご購入いただきましたら保証書にお買い上げ日、御社名、御住所などをご記入の上、大切に保管してください。
- 2 . 製品の無償保証期間はご購入日より1ケ年、最長で出荷日より1年3ヶ月です。ただし、無償保証期間内でも次のような場合は有償となることがありますのでご了承ください。
 - (1) 保証書のご提示がないとき
 - (2) 保証書の所定事項に未記入の箇所がある場合
 - (3) マニュアル等に記載された使用方法および注意事項に反する取り扱いによる障害
 - (4) 故意または重大な過失による障害
 - (5) 使用環境が所定条件から逸脱したことによる障害
 - (6) 許可無く、改造または他機器の接続、取付けを行なったことによる障害
 - (7) 災害、地震、水害等の天災地変による障害
 - (8) お客様の作成されたソフトウェアおよびシステムによる障害
 - (9) 使用上避けられない消耗による障害・部品交換（消耗品交換）
- 3 . 製品の品質につきましては、十分注意して製造しておりますが、なにかお気づきの点がありましたらご連絡下さい。
- 4 . 製品の内容は、修正バージョンアップなどにより、予告なく変更することがあります。

本製品の運用の結果生じた損失については、全てに關しての責任を負いかねますのでご了承ください。

はじめに

この度はキーボードインラインバーコードリーダー「Touch7」をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

Touch7 は、コンピュータ本体とキーボードの間に接続するだけで、バーコードリーダーとして動作が可能です。DOS/V 機、PC-98シリーズ、Macintosh シリーズ（ADB ポート）、FMR シリーズ等のコンピュータに対応しており、使用する機種が変わっても、ディップスイッチの切り替えとそれぞれの接続ケーブル（オプション）を交換して戴くだけで、本体はそのまま使用することが出来ます。

また、読み取り部分はタッチ式ですのでバーコードに当てるだけで読み取ることができ、オペレーターを選ばず、誰でも簡単に読み取ることができます。

Touch7 では読み取り口径60mm幅の他、100mm幅のタッチスキャナーも用意しておりますので使用するバーコードの幅に合わせて選択して戴けます。

タッチスキャナーのケーブルは800mmのストレートケーブルを標準としており、600mmのカールコードと取り替えることも可能です。また、必要に応じて1m、3mの延長ケーブルも用意してございます。

バーコード読み取り時に鳴るブザーは、スキャナーのブザーと本体のブザーとの切り換えが可能で、音量も変えられますので、静かなオフィスや騒音の中での使用でも快適に操作することができます。

タッチスキャナーのトリガスイッチは各種モードに対応しており、ユーザーの読み取り操作に応じてモードを切り換えて使用することが可能です。

Touch7 の機能を充分にお使い頂き、お客様の各種業務の効率化へのお役に立てて頂ければ幸いです。

ご注意

本マニュアルではWindowsの操作方法については触れておりません。ご不明な点がございましたら、マニュアルや市販のガイドブック等をご覧ください。

本マニュアルは各機種共通となっておりますが、説明に使用しているコンピュータはDOS/V機となっております。それ以外の機種では多少異なる場合もありますのでご了承ください。

同梱品

Touch7 本体（置台）	1
Touch7 スキャナー（L06またはL10）	1
I/Oケーブル	1
ACコンセント2P-3P変換プラグ	1
ユーザーズマニュアル	1
保証書	1

表記について

本マニュアルでは、以下のような表記を用います。

「 」 特に断らない限り、Touch7 を指します。

「コンピュータ」

特に断らない限り、機器を接続するホストコンピュータやパソコンの総称です。

「Windows、MS-Windows」 特に断らない限り、以下のOSを指します。

日本語Microsoft Windows 3.1

日本語Microsoft Windows 95

日本語Microsoft Windows 98

日本語Microsoft Windows Me

日本語Microsoft Windows 2000 Professional

日本語Microsoft Windows NT Workstation 3.51

日本語Microsoft Windows NT Workstation 4.0

もくじ

第1章 ハードウェア

1-1	各機器の仕様	1-2
1-1-1	各部の名前と役割～本体	1-2
1-1-2	各部の名前と役割～スキャナー	1-4
1-1-3	仕様	1-7
1-2	その他の仕様	1-8
1-2-1	読み取り可能なバーコード	1-8
1-2-2	読み取り方法	1-9
1-2-3	読み取り性能	1-10
1-2-4	バーコード保証基準	1-12
1-3	トリガスイッチ	1-15

第2章 Touch7 を動かしてみよう

2-1	準備	2-2
2-1-1	接続と設定	2-2
2-1-2	接続方法	2-5
2-2	起動と読み取り確認	2-8

第3章 データについて

3-1	データの加工	3-2
3-1-1	データの加工概要	3-2
3-1-2	ファンクションバーコード機能	3-3
3-1-3	ADD ON機能	3-4
3-2	データの出力	3-6
3-2-1	データの出力概要	3-6
3-2-2	フォーマット切り替え出力時の読み取りデータ種別設定	3-9
3-2-3	フィールド出力機能の使用例	3-12
3-2-4	フィールド出力機能の設定	3-20

第4章 コマンド

4-1	コマンド概要	4-2
4-1-1	コマンド一覧表	4-2
4-1-2	コマンドの設定	4-3
4-2	各コマンドの説明	4-4

第5章 こんな時は

5-1	正常動作しない時	5-2
-----	----------	-----

付録

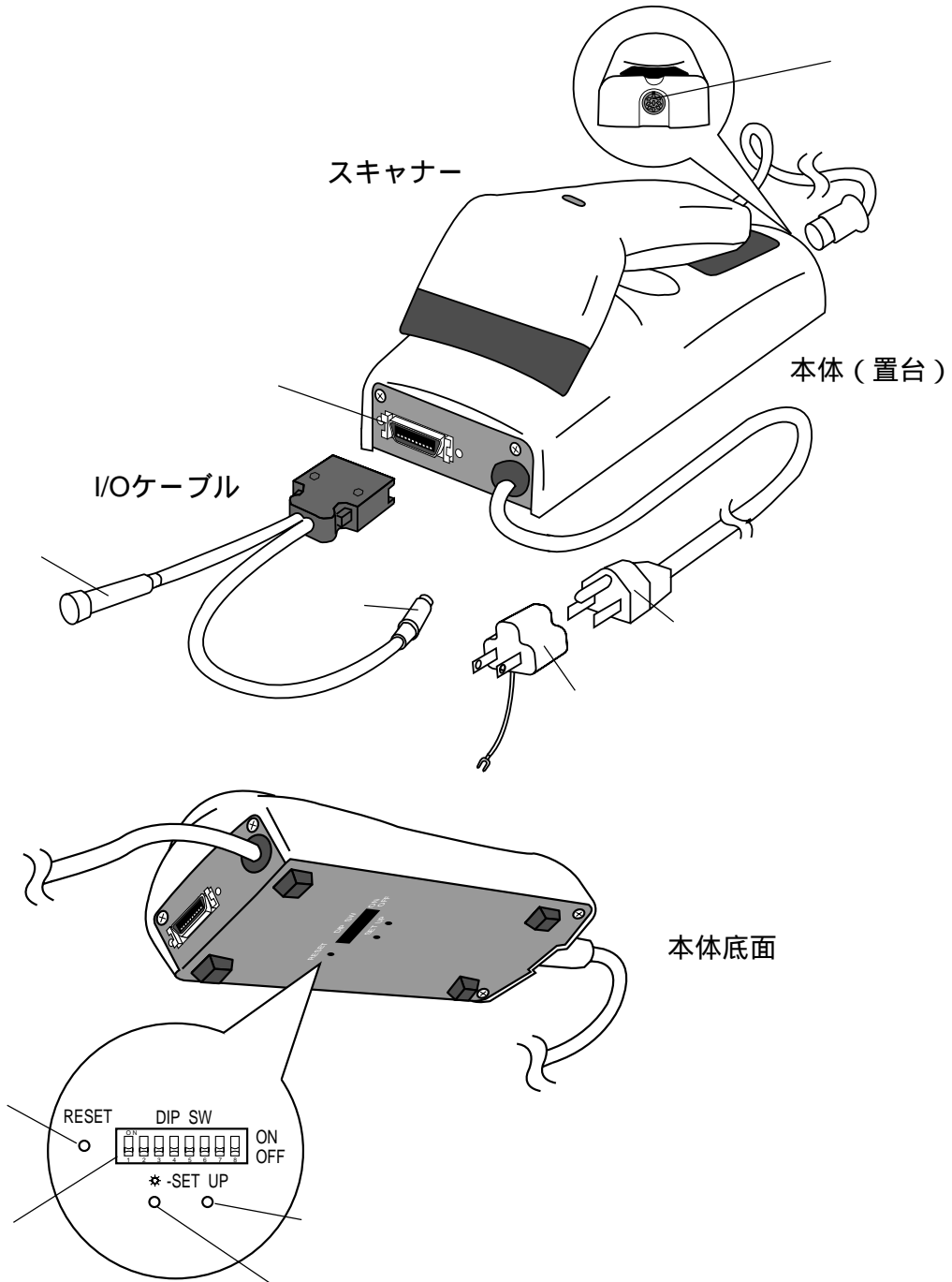
フルアスキーモード	付録-2
フルアスキーキャラクタセット表	付録-4
サンプルバーコード	付録-6
接続機種一覧	付録-9
DOS/Vノート機をご使用の場合	付録-12
DOS/Vノート(タイプ1)	付録-13
DOS/Vノート(タイプ2)	付録-14
DOS/Vノート(タイプ3)	
[旧式のIBM ThinkPadや旧式の日立FLORAノート機]	付録-15
ディップスイッチ設定一覧	付録-20

第1章

ハードウェア

1-1 各機器の仕様

1-1-1 各部の名前と役割～本体



キーボードI/Oコネクタ
I/Oケーブルを接続して下さい。

キーボード側コネクタ
コンピュータ本体から抜いたキーボードのコネクタを接続して下さい。

コンピュータ本体側コネクタ
コンピュータ本体のキーボード用コネクタに接続して下さい。

スキャナーコネクタジャック
スキャナーを接続して下さい。

セットアップスイッチ
このスイッチを1秒以上押し続けるとセットアップモードに入ります。セットアップモードに入るとキーボード入力ができなくなります。

セットアップLED
セットアップモードに入ると、このLEDが点灯します。

リセットスイッチ
Touch7 をリセットします。通常は押さないで下さい。

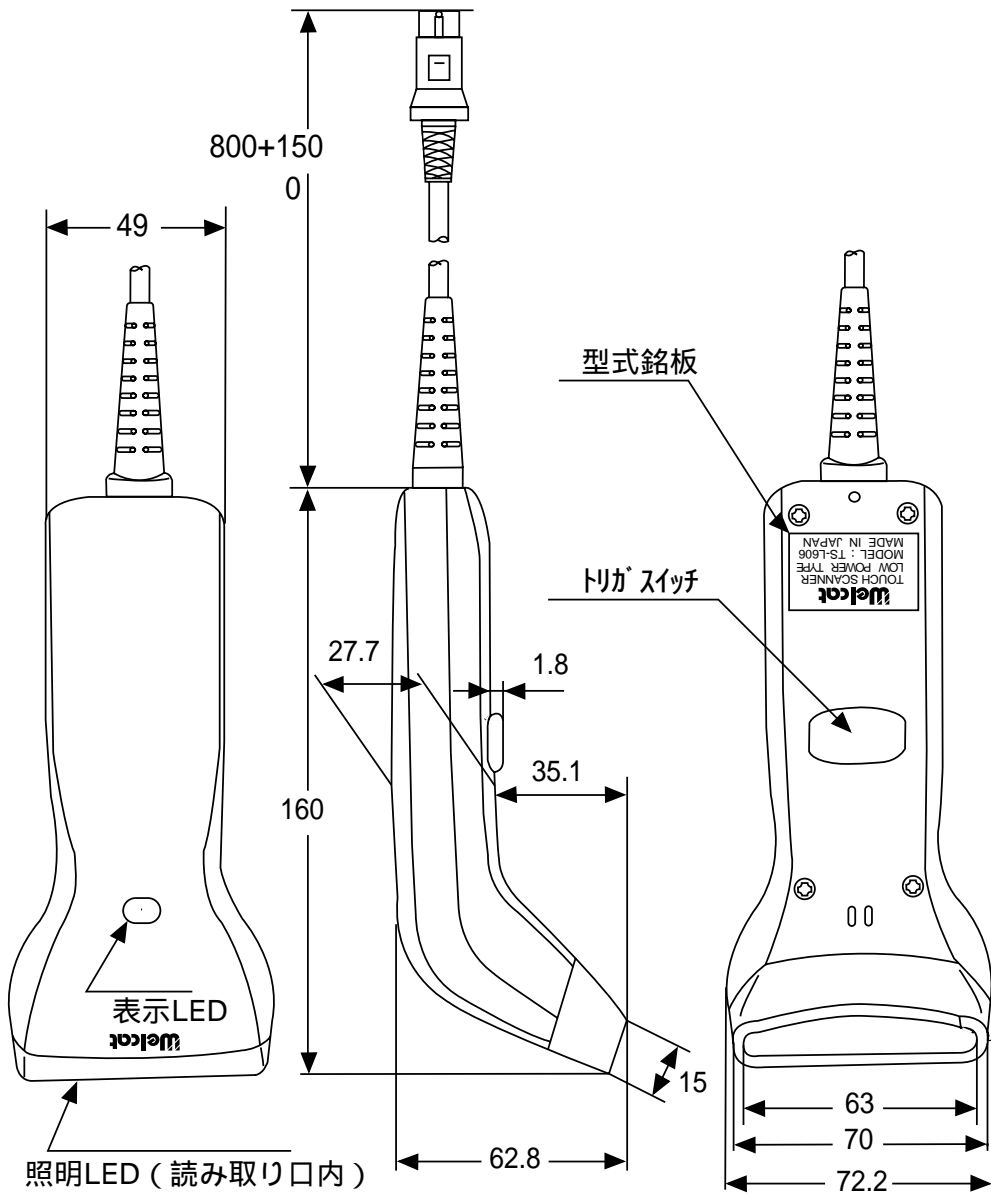
ディップスイッチ
使用するコンピュータまたはキーボードの機種により設定を切り替えて下さい(「2-1-1 接続と設定」参照)。

ACケーブル

ACコンセント2P-3P変換プラグ
ACコンセントが2個口の場合、このプラグをACケーブルに接続して下さい。

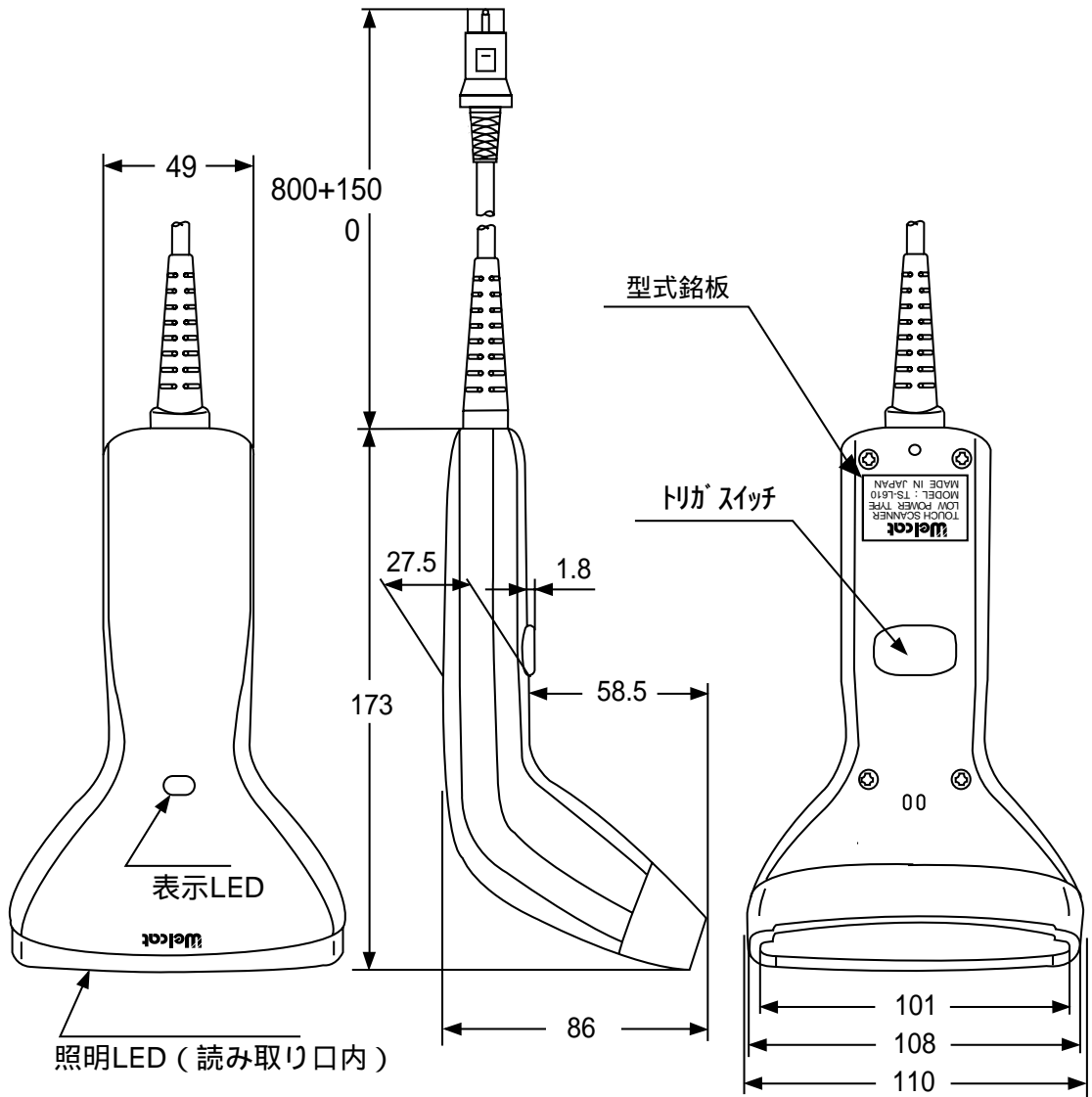
1-1-2 各部の名前と役割～スキャナー

L06タイプ



重量：約180g（スキャナー単体約140g，接続ケーブル約40g）

L10タイプ



重量：約240g（スキャナー単体約200g，接続ケーブル約40g）

第1章 ハードウェア

照明LED

スキャナー読み取り口の照明LEDの点灯・点滅により読み取り許可状態と読み取り待機状態を報知します。

点灯 ・ 点滅	読み取り可能状態を意味します。 ただし、読み取り窓にバーコードがないと判断した時、約5秒後に照明LEDは点滅を始めます。この点滅は、読み取り窓をバーコードに近づけることにより、点灯に変わります。
消灯	読み取り待機状態を意味します。 この状態ではバーコード読み取りは出来ません。

表示LED

スキャナー上部にある表示LEDの点灯によりOKとNGを報知します。

OK表示 (緑)	次の場合に点灯します。 正常に読み取りが完了した時に点灯。 電源を入れた時に「ピッ」という音と共に点灯。
NG表示 (赤)	「ピッピッ」というアラームと共に点灯します。

トリガスイッチ

用途に応じて読み取り方法を6種類のモードが選択できます。詳しい説明は「1-3 トリガスイッチ」を参照して下さい。

型式銘板

スキャナーのタイプを表わします。

タイプ	モデル名
L06	TS-L606
L10	TS-L610

1 - 1 - 3 仕様

1 . 読み取りコード

NW-7 (CODABAR) またはNW-7HEX、CODE39、JAN-13、JAN-8、UPC-A、UPC-E、UPC-D3、インターリブド2of5 (ITF)、インダストリアル2of5 (IND)、CODE93、CODE128

2 . 正読確認

ブザーによる読み取り音およびスキャナーのLED点灯

3 . 入出力端子

キーボードI/Oコネクタ

スキャナー入力コネクタ

4 . 電源

AC100V 50 / 60Hz (AC85 ~ 132V)

5 . 消費電力

2.5W以下

6 . 寸法

本体 : 80 (W) × 220 (D) × 59 (H) mm (突起部含む)

スキャナー : 「 1 - 1 - 2 各部の名前と役割 ~ スキャナー 」 参照

7 . 環境

使用温度 : 0 ~ 35

使用湿度 : 20% ~ 80% (但し結露なきこと)

使用周囲照度 : 3000ルクス以下 (昼光色蛍光灯)

8 . 重量

本体 : 約600g

スキャナー : L06 (60mm幅タイプ) 約180g

: L10 (100mm幅タイプ) 約240g

L06、L10ともにケーブル約40gを含む

1-2 その他の仕様

1-2-1 読み取り可能なバーコード

読み取りコード (注1)	CODE39、NW-7(CODABAR)、NW-7HEX、EAN / JAN-13、EAN / JAN-8、UPC-A、UPC-E、UPC-D3、 インタリフト2of5(ITF)、インタリアル2of5(IND)、CODE93、CODE128	
バーコードの反射値 (注2)	白バー	0.45以上
	黒バー	0.25以下
	白バー・黒バーの反射値差	0.4以上
PCS値(注2)	$\frac{(\text{白バーの反射値}) - (\text{黒バーの反射値})}{\text{白バーの反射値}} \quad 0.45$	
バーコード長	TS-L606	61mmMAX (左右マージンを含む)
	TS-L610	97mmMAX (左右マージンを含む)
バーコード高さ (注3)	10mmMIN . 推奨値	

(注1) 各バーコードの詳細な基準は「1-2-4 バーコード保証基準」を参照して下さい。

(注2) PCS値および反射率は、スペクトルのピークが633nmでスペクトル範囲が610～650nmの光源にて満足すること。

(注3) バーコード高さが短いと操作性が悪くなり、読み取りも遅くなることがあります。

1-2-2 読み取り方法

スキャナーが読み取り可能状態である時、手持ちでスキャナーを操作し、読み取り窓をバーコードラベルに近付けることによってスキャナーは自動的にバーコードラベルを読み取り、データをコンピュータに転送します。読み取り可能な状態になる手順はスキャナーのモードにより異なります。詳しくは「1-3 トリガスイッチ」を参照して下さい。

スキャナーが読み取り可能状態であつ読み取り窓にバーコードが当たっている間バーコードを正しく読み取るまで何度も読み取り試行を繰り返します。読み取り窓に対し、バーコードの配置を左右逆にしても読み取り可能です。

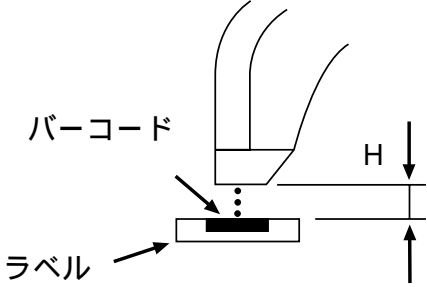
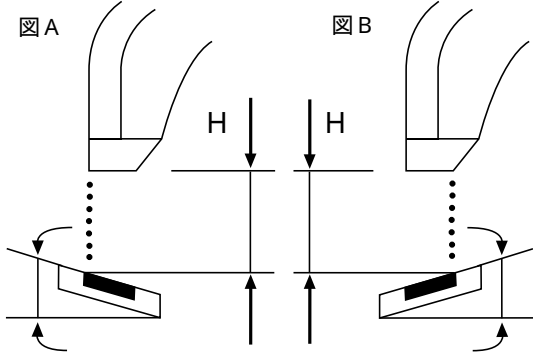
読み取り窓には、バーコードラベルを1つだけ当てることとします。2つ以上のバーコードラベルを同時に当てた場合には、バーコードラベルを交互に読み続けることがあります。

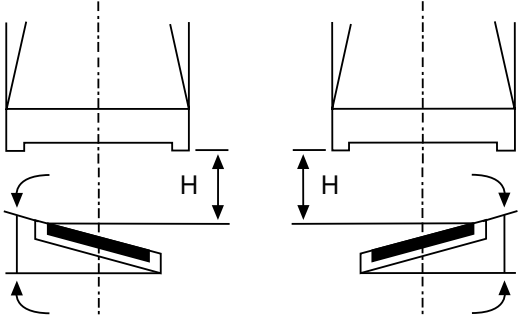
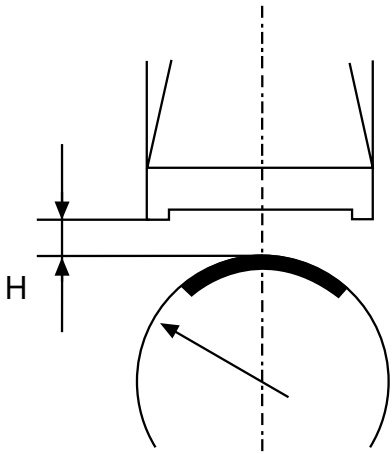
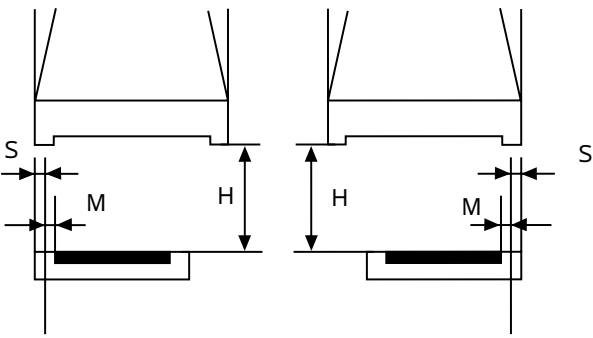
同一ラベルの二度読み防止

スキャナーの読み取り窓にラベルを当て続けた場合、読み取りデータをコンピュータに一度だけしか転送しないようにすることを同一ラベルの二度読み防止と呼びます。このため、バーコードを正しく読み取った後再度同じバーコードラベルを読み取る場合は、約300msec間スキャナーの読み取り窓をバーコードラベルのバーコード部から15cm以上遠ざける二度読み防止解除操作を必要とします（ただし、リピートモードを除く。）

1-2-3 読み取り性能

これらの性能はJAN-13.、JAN-8ラベルで倍率1.0、spaceの反射率0.8、Barの反射率0.1の白黒ラベルにて保証するものです。

<p>浮上H</p> 	<p>10mm H 0mm ただし、 $\theta = 0^\circ$ $\phi = 0^\circ$ = バーコードの位置は 読み取り窓のセンター とします。</p>
<p>仰角</p> 	<p>20° 0° ただし、 $H=0\text{mm}$ $\theta = 0^\circ$ = バーコードの位置は 読み取り窓のセンター とします。 (図Aでは、鏡面反射を おこす場合があり、 角度によっては読め ないことがある。)</p>

<p>仰角</p> 	<p>3° 0° ただし、 H=0mm =0° = ラベルの位置は読み取り 窓のセンターとします。</p>
<p>湾曲（直径）</p> 	<p>60mm(JAN-13) 43mm(JAN-8) ただし H=0mm =0° =0° ラベルの位置は読み取り 窓のセンターとします。</p>
<p>サイド不読領域 S</p> 	<p>4.5mm S 0mm (L06) 5.5mm S 0mm (L10) ただし、 H=0mm =0° =0° = ライト/レフトマー ジ ンMはラベルに含まれ Sには含みません。</p>

1-2-4 バーコード保証基準

「読取桁数」は「読み取り口径内の桁数」を意味します。

NW-7 (CODABAR)

バーコード体系 項目		< L06 (60mm) >	< L10 (100mm) >
		読取桁数	NW-7 3 ~ 32 桁 (スタートストップ キャラクタを含む)
読取 寸法	加-エレメント	0.15 mm以上 0.5 mm以下	0.19 mm以上 0.9 mm以下
	加-スペース (H ⁻) と ワイド-スペース (H ⁻) の比	1 : 2.2 ~ 1 : 3	1 : 2.2 ~ 1 : 3
	キャラクタ間キ ャップ	加-エレメント以上	加-エレメント以上
	ライト/レフトマージン	2.5mm以上または加-エレメントの10倍幅 のいずれか大きい値以上	2.5mm以上または加-エレメントの10倍幅 のいずれか大きい値以上

CODE39

バーコード体系 項目		< L06 (60mm) >	< L10 (100mm) >
		読取桁数	CODE39 1 ~ 25 桁 (スタートストップ キャラクタを含まない)
読取 寸法	加-エレメント	0.15 mm以上 0.5 mm以下	0.19 mm以上 0.9 mm以下
	加-スペース (H ⁻) と ワイド-スペース (H ⁻) の比	1 : 2.2 ~ 1 : 3	1 : 2.2 ~ 1 : 3
	キャラクタ間キ ャップ	加-エレメント ~ 加-エレメントの6倍幅	加-エレメント ~ 加-エレメントの6倍幅
	ライト/レフトマージン	2.5mmまたは加-エレメントの10倍幅の いずれか大きい値以上	2.5mmまたは加-エレメントの10倍幅の いずれか大きい値以上

JAN-13 / 8

バーコード体系 項目		< L06 (60mm) >		< L10 (100mm) >	
		JAN-13	JAN-8	JAN-13	JAN-8
読取桁数		13桁	8桁	13桁	8桁
読取寸法	モジュール寸法	0.26 ~ 0.66 mm		0.26 ~ 0.66 mm	
	倍率	0.8 ~ 2.0		0.8 ~ 2.0	
	レフトマージン	11モジュール以上	7モジュール以上	11モジュール以上	7モジュール以上
	ライトマージン	7モジュール以上		7モジュール以上	

「倍率」は、EAN (JAN) シンボルスペックの0.33バーを基準とした値です。

UPC-A / E / D3

バーコード体系 項目		< L06 (60mm) >			< L10 (100mm) >		
		UPC-A	UPC-E	UPC-D3	UPC-A	UPC-E	UPC-D3
読取桁数		12桁	7桁	24桁	12桁	7桁	24桁
読取寸法	モジュール寸法	0.26 ~ 0.66 mm		0.26 ~ 0.46 mm	0.26 ~ 0.66 mm		
	倍率	0.8 ~ 2.0		0.8 ~ 1.4	0.8 ~ 2.0		
	レフトマージン	9モジュール以上	9モジュール以上	9モジュール以上	9モジュール以上	9モジュール以上	9モジュール以上
	ライトマージン		7モジュール以上			7モジュール以上	

「倍率」は、UPCシンボルスペックの0.33バーを基準とした値です。

インターリブド2of5、インダストリアル2of5

項目		< L06 (60mm) >		< L10 (100mm) >	
		インターリブド2of5	インダストリアル2of5	インターリブド2of5	インダストリアル2of5
読取桁数		2 ~ 48 桁	1 ~ 28 桁	2 ~ 64 桁	1 ~ 37 桁
読取寸法	扣-エレメント	0.15 mm以上 0.5 mm以下		0.19 mm以上 0.9 mm以下	
	扣-スペース (H-) と ワイドスペース (H-) の比	1 : 2.2 ~ 1 : 3		1 : 2.2 ~ 1 : 3	
	キャラクター間キ ャップ	-	扣-エレメント以上 ワイド エレメント以下	-	扣-エレメント以上 ワイド エレメント以下
	ライト/レフトマージン	2.5mmまたは扣-エレメントの10倍の いずれか大きい値		2.5mmまたは扣-エレメントの10倍の いずれか大きい値	

読み取り桁数

読み取りコードが複数のコード体系の読み取り許可の場合、またはファンクションバーコードが「許可」でCODE39以外のコードが「読み取り許可」の場合は、誤読防止のため読み取り桁数は次のようになります。

L06 : 4 ~ 48桁 (インターリブド 2of5)、3 ~ 28桁 (インダストリアル2of5)

L10 : 4 ~ 64桁 (インターリブド 2of5)、3 ~ 37桁 (インダストリアル2of5)

CODE93

項目		< L06 (60mm) >		< L10 (100mm) >	
		CODE93		CODE93	
読取桁数		1 ~ 37 桁 (スタートストップ キャラクタ、2桁のC/Dを含まず)		1 ~ 49 桁 (スタートストップ キャラクタ、2桁のC/Dを含まず)	
読取寸法	モジュール寸法	0.15 mm以上 0.5 mm以下		0.19 mm以上 0.9 mm以下	
	ライト/レフトマージン	2.5mmまたは扣-エレメントの10倍の いずれか大きい値		2.5mmまたは扣-エレメントの10倍の いずれか大きい値	

CODE128

項目		< L06 (60mm) >		< L10 (100mm) >	
		CODE128		CODE128	
読取桁数		1 ~ 30 桁 (スタートストップ キャラクタ、1桁のC/Dを含まず)		1 ~ 40 桁 (スタートストップ キャラクタ、1桁のC/Dを含まず)	
読取寸法	モジュール寸法	0.15 mm以上 0.5 mm以下		0.19 mm以上 0.9 mm以下	
	ライト/レフトマージン	2.5mmまたは10モジュールの いずれか大きい値以上		2.5mmまたは10モジュールの いずれか大きい値以上	

1-3 トリガスイッチ

Touch7 のスキャナーは、用途に応じて下記の6種類のモードを選択できます。モードの設定はコマンドバーコードを読み取ることにより行います（「第4章 コマンド」をご覧ください）。

1. オートオフモード

トリガスイッチを押してから約5秒間だけ照明LEDが点灯し、読み取り可能状態となります。バーコードを読んだ後、もしくは約5秒間経過した時に自動的にLEDが消灯し、読み取り待機状態になります。

2. モメンタリスイッチモード

トリガスイッチを押している間だけLEDが点灯し、読み取り可能な状態になります。

3. オルタネートスイッチモード

トリガスイッチを押すごとにLEDの点灯と消灯を繰り返します。LEDが点灯している間だけ読み取りが可能です。

4. リピートモード（注1）

電源が入っている間は、常時読み取り可能状態となります。正常に読み取りが完了した後、そのままラベルにスキャナーの読み取り窓を当てた状態で、かつ表示LEDが点灯している間にトリガスイッチを押すと、押した回数分だけ同一データがコンピュータに転送されます（読み取りは行わずデータのみ転送します）。

例えば同一ラベルデータを4回転送させたい場合は、そのラベルを読み取らせた後、続けてトリガスイッチを3回押します。

次のラベルデータを読み取る場合はスキャナーの読み取り窓をラベルから遠ざけて、前に読ませた時のOK表示LEDが消灯したことを確認してからラベル読み取り操作を行って下さい。

5. 連続読み取りモード

電源が入っている間は常時読み取り可能状態になります（ただし、ラベルに読み取り窓を当てたまま電源投入しても読み取れません）。

6. オートパワーオフモード（出荷時設定）

トリガスイッチを押すと、連続読み取りモードとなります。バーコード読み取り後、読み取り動作（注2）を行わず放置すると、約5分後に自動的に照明LEDが消灯します。

（注1）リピートモードではデータが長い場合、トリガスイッチを連続して早く押すとコンピュータ側のバッファが一杯になり、データが途中で切れることがあります。

連続して押す場合はあまり早く押さないようにして下さい。

（注2）読み取り動作

トリガスイッチをONにした時、または読み取り許可されているバーコードを読み取らせた時のことをいいます。

第2章

Touch7 を動かして
みましょう

2-1 準備

2-1-1 接続と設定

Touch7 では接続するコンピュータ別に次の2点の接続、設定をします。

- ・ I/Oケーブルの接続
- ・ 本体底面のディップスイッチの設定

設定時には「付録 接続機種一覧」でご使用になるコンピュータの「スイッチ」と「ケーブル」の欄を確認して下さい。「スイッチ」や「ケーブル」が正しく選択されていないと、正常に動作しなかったり故障したりします。

ケーブルの接続、ディップスイッチの設定は、必ず電源が入っていない状態で行って下さい。

I/Oケーブルの接続

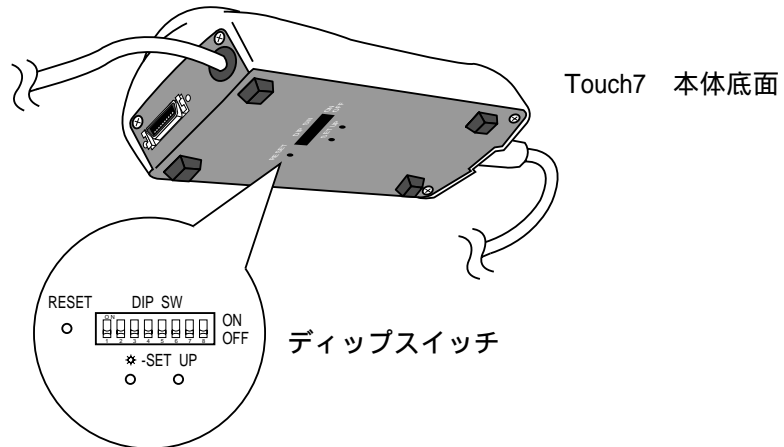
I/Oケーブルは接続するコンピュータにより異なります。

「付録 接続機種一覧」で、ご使用になるコンピュータの「ケーブル」欄の型番とI/Oケーブルに貼付してある銘板名が一致しているか確認して下さい。

ディップスイッチの設定

「付録 接続機種一覧」で、ご使用になるコンピュータの「スイッチ」欄をご覧の上、「付録 ディップスイッチ設定一覧」の記号と「スイッチ」欄が一致するように設定して下さい。

ディップスイッチは出荷時には全てOFFに設定されていますので、必ず接続する機種にあわせて切り替えて下さい。



「付録 接続機種一覧」にご使用になるコンピュータが記載されていない場合には、お手数ですが弊社営業部までご連絡いただくか、弊社ホームページ<http://www.welcat.co.jp/> をご覧下さい。

ご注意

次のディップスイッチの設定で使用する場合はTouch7 の機能が制限されます。

- ・ディップスイッチの設定が (L-1)、(L-2) の場合、Touch7 の設定に関わらずテンキーから入力可能なキャラクタ (数字0~9、+、-、*、/、.、「CR」) 以外は出力できません。
- ・ディップスイッチの設定が (A)、(B)、(C) の場合、端末コードの設定で「実行/Enter」を設定すると「改行/Return」と同じものとして扱います。
- ・ディップスイッチの設定が (L-1)、(L-2) の場合、端末コードはどれを選択しても「改行/Return」として扱われます。
- ・「エミュレーションモードとノーマルモードの切り替え」の設定は、以下のコンピュータでのみ有効です。

IBM PS/55 シリーズでディップスイッチの設定が (G) の機種

IBM 3477 でディップスイッチの設定が (I)、(J)、(K) の機種

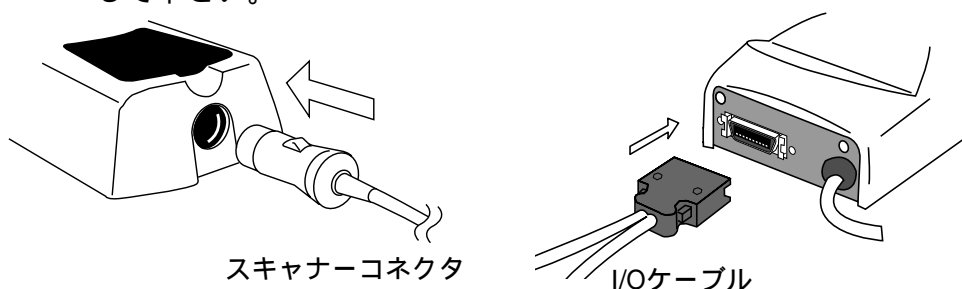
次のタイプのコンピュータはTouch7 の機能が制限されます。

- ・ノートタイプの場合、機種によってはバッテリーの消耗が早くなることがあります。
- ・ノート、ラップトップタイプのコンピュータに接続してご使用される場合、シフト関係のキー (SHIFT、CTRL、GRPH、ALT、カナ等) が押されていない状態または解除された状態でバーコードを読んで下さい。

2-1-2 接続方法

まず、Touch7 をコンピュータに接続することから始めます。ここではWindowsのインストールされたDOS/V機を例に説明します。

1. 本体底面のディップスイッチを接続コンピュータ、キーボードに合わせて設定します。ディップスイッチは、出荷時設定では全てOFFに設定されていますので、必ず接続する機種に合わせて切り替えて下さい。設定方法は「2-1-1 接続と設定」をご覧ください。
2. Touch7 のスキャナーコネクタを置台のスキャナーコネクタジャックに、I/Oケーブルを置台のキーボードI/Oコネクタに接続して下さい。



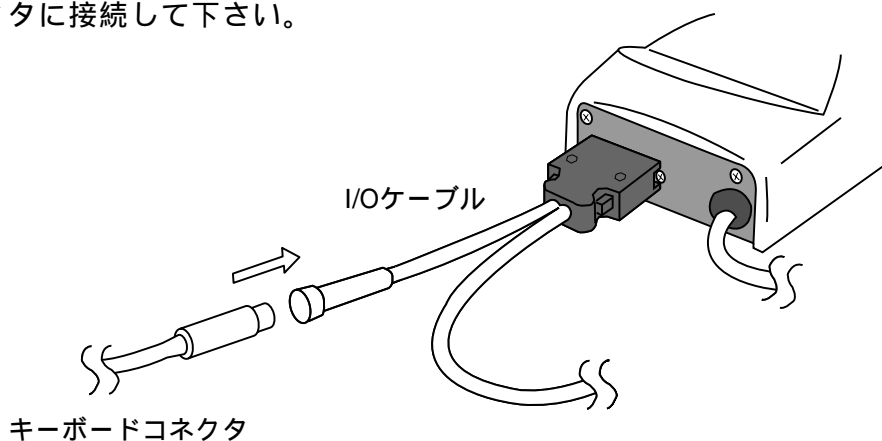
3. コンピュータ及びCRTの電源スイッチがOFFになっていることを確認して下さい。

Touch7 はコンピュータよりキーボードに供給される電源に連動して起動し、その時にディップスイッチの設定を確認するため、ディップスイッチの設定後にコンピュータの電源をON する必要があります。

しかし、コンピュータの種類によっては電源がOFF になっていてもスタンバイ機能を有効にするためにキーボードに電源を供給しているものがあり、その場合 Touch7 は起動したままになってしまうことがあります。このため、ディップスイッチの設定を新たにする場合

合はコンピュータの電源をOFFするだけでなく、必ず
キーボードI/Oケーブルを置き台から一旦取り外すよう
にして下さい。

- 4 . キーボードのコネクタをコンピュータの本体から抜いて下さい。
- 5 . 抜いたキーボードのコネクタを、I/Oケーブルのキーボード側コネクタに接続して下さい。



- 6 . I/Oケーブルのコンピュータ本体側コネクタをコンピュータ本体のキーボード用コネクタに接続して下さい。
- 7 . ACケーブルをACコンセントに差し込んで下さい。ACコンセントが2個口の場合は、ACコンセント2P-3P変換プラグをACケーブルに接続して下さい。

コンピュータを立ち上げる前に、必ずTouch7 のACケーブルを差して下さい。

ノート、ラップトップ型コンピュータに接続する場合はテンキーパッド用のコネクタに接続してください。さらにテンキーパッドを接続する場合はディップスイッチの設定が異なる場合があります。「付録 接続機種一覧」「付録 ディップスイッチ設定一覧」を参照して下さい。

2-2 起動と読み取り確認

1. コンピュータの電源を入れて、Windowsを起動して下さい。
2. スキャナーのトリガスイッチを押して読み取り口が赤く点灯するのを確認して下さい。赤く点灯しない場合、またはエラーブザーが鳴る場合は「第5章 こんな時は」をご覧下さい(ただし、オートパワーオフの場合に限ります。詳しい説明は「1-3 トリガスイッチ」を参照して下さい)。
3. 読み取り動作確認のために、Windowsのメモ帳 (NOTEPAD) を起動して下さい。



4. 次に巻末の付録サンプルバーコードを読ませてみて下さい。正しく読んだ場合は、正常ブザーが「ピッ」と鳴動し、スキャナーの表示LEDが緑色に点灯します。画面にTouch7 で読んだデータが表示されれば動作はOKです。



なお、初期設定では、「スタート・ストップキャラクタを付けないでデータ出力する」と設定されています。

キーを押しながら、またはマウスを操作しながらバーコードを読むと、データの欠けや化けが生じる場合がありますのでおやめください。

旧式のIBM Think Padや旧式の日立FROLAノート機「分類タイプ3（ディップスイッチL-1、L-2）の機種」をご使用の場合、テンキーから入力可能な以下のキャラクタ以外は入力できません。

入力可能キャラクタ：0~9、+、-、*、/、.、「CR」

メモ帳を閉じれば読み取り動作の確認は終了です。次は実際に使用されるアプリケーションプログラムを動かして、Touch7 を有効にご活用下さい。

第2章 Touch7 を動かしてみよう

第3章

データについて

3-1 データの加工

3-1-1 データの加工概要

では、コマンドバーコードを読み取ることにより「読み取りコードの指定」や「終端コードの出力の有無の選択」などができますが、その他にファンクションバーコード機能やADD ON機能も使用できます。特定の文字やキーボード操作をあらかじめ登録しておくことで、バーコードを読み取る度に登録データを自動で出力できる機能です。頻繁に使用する文字やキーボード操作を登録すれば、同じキーを何度も押す煩わしさが解消でき、入力作業での効率化も計れます。

ファンクションバーコード機能

この機能では、ファンクションバーコードを読み取ると登録してあるデータのみが出力されます。

ADD ON機能

この機能では、バーコードデータを読み取るとそのデータにADD ONデータを付加して出力します。

3-1-2 ファンクションバーコード機能

ファンクションバーコードとは…

ユーザーが頻繁に使う文字またはキーボード操作などを、あらかじめ登録しておき、ファンクションバーコードを読み取ると自動的にそのデータを入力するバーコードです。登録可能件数は8件(F1～F8)です。

設定方法

「ファンクションバーコードの登録」(P.4-31)でデータを登録した後、「ファンクションバーコード機能の切り替え」(P.4-30)で「許可」に設定して下さい。以降、ファンクションバーコードを読み取ると登録されているデータが出力されます。

ファンクションバーコード「許可」に設定した場合、CODE39の「+%1」～「+%8」のデータを読み取るとファンクションバーコード「F1」～「F8」の登録データを入力します。

ファンクションデータを入力する場合は、登録された時と同じ状態(接続コンピュータの機種、OS等の設定、文字入力モード)で入力するようにして下さい。違う状態で入力すると、データの欠けや化けが生じる場合があります。

3-1-3 ADD ON機能

ADD ON機能とは・・・

バーコードデータを読み取る度に、そのデータに特定の文字を付加して出力できる機能です。登録可能件数は6件（AO1～AO6）です。今まで、バーコードを読む度に同じキーを押さなければならなかった入力作業での効率化が計れます。

(A) ノーマル出力時のデータにADD ONデータを付加する場合

読み取りデータの前後に、それぞれ1つずつ付加できます。同じADD ONデータでも構いません。

【出力データフォーマット例】

コードタイプ キャラクタ	ADD ON データ	読み取り データ	ADD ON データ	終端コード
-----------------	---------------	-------------	---------------	-------

(コードタイプキャラクタと終端コードを付加する場合)

【設定方法】

「ADD ONデータの登録」(P.4-36)でデータを登録した後、
「ADD ON機能の切り替え」(P.4-34)で読み取りデータの前後にAO1～AO6の、どのデータを付加させるかを設定して下さい。

(B) フィールド出力時のデータにADD ONデータを付加する場合

フィールド出力時のフォーマット内で自由な位置に5つまで付加できます。同じADD ONデータを何度使っても構いません。

【出力データフォーマット例】

ADD ON データ	コードタイプ キャラクタ	読み取り データ	ADD ON データ	読み取り データ	ADD ON データ	終端コード
---------------	-----------------	-------------	---------------	-------------	---------------	-------

(読み取りデータを2つに分割し、ADD ONデータを3つ、
コードタイプキャラクタと終端コードを付加する場合)

【設定方法】

「ADD ONデータ登録」(P.4-36)でデータを登録した後、
「フィールド出力時のデータフォーマットの設定」(P.4-40)
でフォーマットを作成する際に任意の場所に設定して下さい。

ノーマル出力とフィールド出力については「3-2 データの出力」を
ご覧下さい。

ADD ONデータを出力する場合は、登録された時と同じ
状態(接続コンピュータの機種、OS等の設定、文字入
力モード)で出力するようにして下さい。
違う状態で出力すると、データの欠けや化けが生じる場
合があります。

3-2 データの出力

3-2-1 データの出力概要

で読み取ったデータを出力する形式として、「ノーマル出力」と「フィールド出力」の2種類があります。「ノーマル出力」は読み取ったデータ自体は加工せず、そのデータに終端コードやADD ONデータを付加して出力します。一方、「フィールド出力」は読み取りデータの必要な部分のみを分割、編集してそのデータに終端コードやADD ONデータを付加して出力することができます。この「フィールド出力」機能を使用すると、市販の表計算ソフトなどのアプリケーションソフトにバーコードデータの一部だけを自動的に入力することが可能になります。「ノーマル出力」と「フィールド出力」では設定が有効となるコマンドも違いますのでご注意ください（「4-1-1 コマンド一覧」をご覧ください）。

ノーマル出力

読み取ったバーコードのデータはそのまま出力されます。ただし、「コードタイプキャラクタの出力の有無」、「ADD ON機能の切り替え」、「終端コードの出力」の設定により、次のように決められた順番で他データが付加できます。

コードタイプ キャラクタ	前ADD ON データ	読み取り データ	後ADD ON データ	終端コード
-----------------	----------------	-------------	----------------	-------

フィールド出力

読み取ったバーコードのデータを分割、編集して出力できます。出力するデータのフォーマットは「フィールド出力時のデータフォーマットの設定」により、次の4種類の構成項目を任意の順番の各5回まで並べて指定することで設定します。

1. 読み取りコードの分割方法
2. コードタイプキャラクタの付加
3. 終端コードの付加
4. ADD ONデータの付加

コードタイプ キャラクタ	読み取り データ	ADD ON データ	終端 コード	ADD ON データ	読み取り データ	ADD ON データ	終端 コード	ADD ON データ	終端 コード
-----------------	-------------	---------------	-----------	---------------	-------------	---------------	-----------	---------------	-----------

さらに、「フィールド出力」は「固定フォーマット出力」と「フォーマット切り替え出力」の2種類に分けられます。どのバーコードを読んでも同じフォーマットで出力する方法を「固定フォーマット出力」、読んだバーコードデータの種別ごとにそれぞれ指定されたフォーマットで出力する方法を「フォーマット切り替え出力」と言います。

例

- ・ 0123456789 (ITF 10桁) のバーコードを読み取った場合

読み取りデータは以下の網掛け部分のように出力されます。(網掛け以外の部分は設定により異なってきます。T=コードタイプキャラクタ)

ノーマル出力

T	0123456789	ADD ON2	改行
---	------------	---------	----

コードタイプキャラクタの出力の有無の設定：付ける
ADD ON機能の切り替え：後ADD ONにADDON2を付加
終端コードの出力の設定：改行 / Return
で設定されている場合

フィールド出力

T	5678	TAB	789	ADD ON2	9	改行
---	------	-----	-----	---------	---	----

出力フォーマットの設定が

- ・ コードタイプキャラクタの付加
 - ・ 読み取りデータの6桁目から4文字
 - ・ 終端コードの「TAB」の付加
 - ・ 読み取りデータの8桁目から3文字
 - ・ ADD ON2データの付加
 - ・ 読み取りデータの10桁目から1文字
 - ・ 終端コード「改行 / Return」の付加
- の順番に設定されている場合

- ・桁数もコード体系も違うバーコードを読み取った場合

読み取りデータは以下の網掛け部分のように出力されます。（網掛け以外の部分は設定により異なってきます。J、C=コードタイプキャラクタ）

固定フォーマット出力

（バーコードデータの種別が違って同じフォーマットで出力）

4912345678904 (JAN-13桁)

J	4567	TAB	67	ADD ON2	89
---	------	-----	----	---------	----

123456789 (CODE39-11桁)

C	5678	TAB	78	ADD ON2	9*
---	------	-----	----	---------	----

出力フォーマットの設定が

コードタイプキャラクタの付加
読み取りデータの6桁目から4文字
終端コードの「TAB」の付加
読み取りデータの8桁目から2文字
ADD ON2データの付加
読み取りデータの10桁目から2文字
の順番に設定されている場合

フォーマット切り替え出力

（バーコードデータの種別により違うフォーマットで出力）

4912345678904 (JAN-13桁)

J	4567	TAB	67	ADD ON2	89
---	------	-----	----	---------	----

123456789 (CODE39-11桁)

123	改行	23456	改行
-----	----	-------	----

読み取りデータ種別の設定が

「JAN-13を読んだら
コードタイプキャラクタの付加
読み取りデータの6桁目から4文字
終端コードの「TAB」の付加
読み取りデータの8桁目から2文字
ADD ON2データの付加
読み取りデータの10桁目から2文字
のフォーマットで出力する」という設定と、
「CODE39の11桁を読んだら
読み取りデータの2桁目から3文字
終端コード「改行 / Return」の付加
読み取りデータの3桁目から5文字
終端コード「改行 / Return」の付加
のフォーマットで出力する」という設定の場合。

出力方法の切り替えは「フィールド出力機能の切り替え」（P.4-39）で行って下さい。

3-2-2 フォーマット切り替え出力時の読み取りデータ種別設定

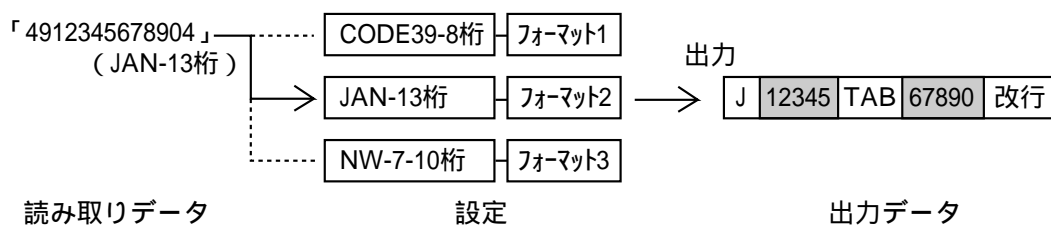
フォーマット切り替え出力では、バーコードの読み取りデータの種別を判別するためにバーコードのコード体系と桁数を使用します。そのために、『何のコード体系』で、『何桁』のバーコードが読まれたら、『どのフォーマット』で出力するのかという、3種類の項目を設定する必要があります。これが「フォーマット切り替え出力時の読み取りデータ種別設定」です。

フィールド出力を「フォーマット切り替え出力」で許可すると、あらかじめ設定されているデータ種別（コード体系と桁数）に合致したバーコードを読み取った場合のみ、データを出力します。その際の出力量も、設定されているフォーマットでのみ出力します。

データ種別と、それに対応するフォーマットの設定は「フォーマット切り替え出力時の読み取りデータ種別設定」（P.4-44）で、フォーマットの内容の設定は「フィールド出力時のデータフォーマットの設定」（P.4-40）で行って下さい。

例

下記のように3種類のデータ種別が設定されている場合に読み取ったバーコードがJAN コードの13桁の場合は、フォーマット2の形式でデータが出力されます。また、CODE39の 8桁、およびNW-7の10桁以外はバーコードを読んでもエラーとなり、出力はされません。



メモリスイッチの設定と出力方法

コマンドによるメモリスイッチの設定変更は、データ出力方法（ノーマル出力 / 固定フォーマット出力/フォーマット切り替え出力）に関係なく、セットアップモードに入ればいつでも可能です。また、設定した内容はメモリスイッチに記憶されますので、電源をOFFにしても消えることはありません。

ただし、設定されているデータ出力方法により、有効になる設定と無効になる設定があります。設定された内容が有効となるか、無効となるかはデータ出力方法の設定（「フィールド出力機能の切り替え」）により左右されます。データ出力方法により有効 / 無効となる設定は以下の(A)(B)です。

(A)バーコードの読み取りに関する設定（コード体系、桁数）

ノーマル出力と固定フォーマット出力時に有効な設定「読み取りコードの設定」と「読み取り桁数の設定」は、フォーマット切り替え出力時には無効となります。

フォーマット切り替え出力時には、コード体系と桁数の設定は「フォーマット切り替え出力のデータ種別設定」で行ないます。

出力方法 コマンド	ノーマル出力	フィールド出力	
		固定フォーマット	フォーマット切替え
読み取りコードの設定	有効	有効	無効
読み取り桁数の設定	有効	有効	無効
フォーマット切替え出力時のデータ種別設定	無効	無効	有効

(B)データの出力フォーマットに関する設定

ノーマル出力時に有効な以下の設定はフィールド出力時には無効となります。

スタート/ストップキャラクタの出力

コードタイプキャラクタの出力

チェックデジットの出力

終端コードの出力

フルアスキーモードの許可 / 禁止

ADD ON機能の切り替え

例えば、ノーマル出力時に有効な「終端コードの出力の設定」を「出力する」と設定しても、フィールド出力使用時、「フィールド出力時のデータフォーマットの設定」で終端コードが設定されていない場合は、読み取ったデータに終端コードは付加されません。

コマンド	出力方法	フィールド出力		
		ノーマル出力	固定フォーマット	フォーマット切替え
スタート・ストップ・キャラクターの出力の有無の設定		有効	無効	無効
コードタイプ・キャラクターの出力の有無の設定		有効	無効	無効
チェックデジットの出力の有無の設定		有効	無効	無効
終端コードの出力の設定		有効	無効	無効
フルスキームの許可/禁止		有効	無効	無効
ADD ON機能の切り替え		有効	無効	無効
フィールド出力時のデータフォーマットの設定		無効	有効	有効

～ と の設定はフィールド出力時は無効ですが、「フィールド出力時のデータフォーマットの設定」により同じ内容を設定することができます。

フォーマット切り替え出力時はCODE39、インターリブド2of5、インダストリアル2of5についてはチェックデジットの照合は行ないません。

3-2-3 フィールド出力機能の使用例

フィールド出力機能を使用して、バーコード読み取りデータを表計算ソフトに入力する場合を想定して、その作業内容と使用方法、さらに、設定の方法について具体的に説明します。

A. 固定フォーマット出力での使用例

《内容》

雑誌の図書コード（JAN-13）のバーコードデータのうち、雑誌コードと単価だけを表計算ソフトに入力する作業を固定フォーマット出力により自動的に行えるようにします。

・図書コードの構成

1	0	I ₁	I ₂	I ₃	I ₄	I ₅	V ₁	V ₂	P ₁	P ₂	P ₃	C/D
		雑誌コード					単価 / 10					

この場合、雑誌コードの部分は4桁目から4文字、単価 / 10の部分は10桁目から3文字となります。この部分のみをセルの移動を行ないながら自動的に入力します。

a. 雑誌コードの入力とセルの移動

雑誌コード	単 価
I ₂ I ₃ I ₄ I ₅	

4桁目から4文字の雑誌コードを入力します。このデータを確定させて単価のセルに移動するために右矢印を入力します。これは、「 」の終端コードを付加することで実現します。

b. 単価の入力とセルの移動

雑誌コード	単 価
I ₂ I ₃ I ₄ I ₅	P ₁ P ₂ P ₃ 0

入力データ

P₁ P₂ P₃ 0

次の入力セル

10桁目から3文字の単価 / 10のデータを実際の単価に直して入力するために、データの後に0を付加します。このデータの確定と次の雑誌コードのセルへの移動のために、下矢印と左矢印を入力します。これらの0と矢印の入力はADD ONデータの付加で実現します。

a、bの入力作業は図書コードを読み取る度に自動的に行われるので、オペレーターは読み取りを行うだけでキーボード入力を行う必要がなくなります。

《設定》

セットアップモードに入って下記の設定を行い、 の出力方法を決定します。以後、表計算ソフトへの入力作業を行える状態になります。

・フィールド出力時のデータフォーマットの設定 (P.4-40)

「フォーマット設定開始」のバーコードを読み取ります。

固定フォーマット出力用なので「フォーマット0」のバーコードを読み取ります。

読み取りデータの4桁目から4文字を、「0」「4」「0」「4」とテンキーバーコードを読んで指定します。

右矢印を付加するために「 」のバーコードを読み取ります。

読み取りデータの10桁目から3文字を「1」「0」「0」「3」とテンキーバーコードを読んで指定します。

0、下矢印、左矢印を付加するために「AO1」のバーコードを読み取ります。（AO1には「ADDONデータの登録」（P.4-36）で、0 を登録する必要があります。）

「フォーマット設定終了」のバーコードを読み取ります。

設定された「フォーマット0」の出力内容

バーコードの 4桁目から4文字	終端コード 右矢印	バーコードの 10桁目から3文字	ADD ON1 0、下矢印、左矢印
--------------------	--------------	---------------------	----------------------

・フィールド出力機能の切り替え

「固定フォーマット出力」のバーコードを読み取ってフィールド出力を許可します。

固定フォーマット出力は読まれたバーコードデータの種別に関係なくデータの出力を行いますので、図書コード（JAN-13）以外のバーコードを誤って入力してしまう危険を減らすためにも、「読み取りコードの設定」（P.4-5）でJAN、EAN、UPC-A/Eの読み取りだけを許可しておくのも良いでしょう。

送信速度の設定が速すぎると表計算ソフトへの入力データが欠ける等の不具合が起こることがあります。その場合は送信速度の設定を調整して下さい。

B. フォーマット切り替え出力での使用例

《内容》

NW-7で印字された行き先を示すバーコードとJAN標準（JAN-13）のバーコードを使用して、行き先と商品コードだけを表計算ソフトに入力する作業をフォーマット切り替え出力により自動的に行えるようにします。

・NW-7

a N₁ N₂ N₃ a
└──────────┘
行き先コード

・JAN標準コード（JAN-13）

S₁ S₂ M₁ M₂ M₃ M₄ M₅ A₁ A₂ A₃ A₄ A₅ C/D
└──┘ └──────────┘ └──────────┘
国コード メーカーコード 商品コード

この場合、NW-7の行き先コードの部分は2桁目から3文字、JANの商品コードの部分は8桁目から5文字となります。この部分のみをセルの移動を行ないながら自動的に入力します。

a. 行き先コードの入力とセルの移動

行き先	商品	入力データ
N ₁ N ₂ N ₃		N ₁ N ₂ N ₃
		次の入力セル

NW-7の5桁（スタート/ストップキャラクタを含む）を読み取ると2桁目から3文字の行き先コードを入力します。このデータを確定させて商品のセルに移動するために右矢印を入力します。これは、「**→**」の終端コードを付加することで実現します。

b. 商品コードの入力とセルの移動

行き先			商品					入力データ				
N ₁	N ₂	N ₃	A ₁	A ₂	A ₃	A ₄	A ₅	A ₁	A ₂	A ₃	A ₄	A ₅
								次の入力セル				

JANコード標準を読み取ると8桁目から5文字の商品コードを入力します。このデータの確定と次の行き先コードのセルへの移動のために、下矢印と左矢印を入力します。これらの矢印の入力はADD ONデータの付加で実現します。

a. の入力作業はNW-7の5桁を読み取る度に、bの入力作業はJAN標準コードを読み取る度に、それぞれが自動的に行われるので、オペレーターはNW-7とJAN標準コードの読み取りを交互に行うだけで、キーボード入力を行う必要がなくなります。ただし、バーコードを読み取る順番を間違わないようにしなくてはなりません。

《設定》

セットアップモードに入って下記の設定を行い、 の出力方法を決定します。以後、表計算ソフトへの入力作業を行える状態になります。

- ・フィールド出力時のデータフォーマットの設定 (P.4-40)
 まず行き先コードの出力用にフォーマットを設定します。
 「フォーマット設定開始」のバーコードを読み取ります。
 フォーマット切り替え出力を使用しますので、「フォーマット1」のバーコードを読み取ります。
 読み取りデータの2桁目から3文字を、「0」「2」「0」「3」とテンキーバーコードを読んで指定します。
 右矢印を付加するために「 」のバーコードを読み取ります。

「フォーマット設定終了」のバーコードを読み取ります。これで「フォーマット1」に行き先コード出力用のフォーマットが設定されました。

設定された「フォーマット1」の出力内容

バーコードの 2桁目から3文字	終端コード 右矢印
--------------------	--------------

次に商品コードの出力用にフォーマットを設定します。

「フォーマット設定開始」のバーコードを読み取ります。フォーマット切り替え出力を使用しますので、「フォーマット2」のバーコードを読み取ります。

読み取りデータの8桁目から5文字を、「0」「8」「0」「5」とテンキーバーコードを読んで指定します。

下矢印、左矢印を付加するために「AO1」のバーコードを読み取ります。（AO1には「ADD ONデータの登録」（P.4-36）で、を登録する必要があります。）

「フォーマット設定終了」のバーコードを読み取ります。これで「フォーマット2」に商品コード出力用のフォーマットが設定されました。

設定された「フォーマット2」の出力内容

バーコードの 8桁目から5文字	ADD ON1 下矢印、左矢印
--------------------	--------------------

- ・フォーマット切り替え出力時の読み取りデータ種別設定（P.4-44）
まず行き先コードの出力用にデータ種別を設定します。
「データ種別設定1」のバーコードを読み取ります。
読み取るバーコードのコード体系を指定します。行き先コードのバーコードはNW-7ですので「NW-7」のバーコードを読み取ります。
読み取るバーコードの桁数を指定します。行き先コードのバーコードは5桁（スタート/ストップキャラクタを含む）ですので「0」「5」とテンキーバーコードを読んで指定します。

どのフォーマットで出力するかを指定します。行き先コード用の出力フォーマットが設定されている、「フォーマット1」のバーコードを読み取ります。これで「NW-7の5桁を読んだらフォーマット1で出力する」という行き先コード出力用のデータ種別が設定されました。

行き先コード出力用データ種別の設定内容

読み取りデータのコード体系 (NW-7)	読み取りデータの桁数 (5桁)	出力フォーマット (フォーマット1)
-------------------------	--------------------	-----------------------

次に商品コードの出力用にデータ種別を設定します。「データ種別設定2」のバーコードを読み取ります。読み取るバーコードのコード体系を指定します。商品コードのバーコードはJAN標準コード(JAN-13)ですので「JAN/EAN-13、UPC-A」のバーコードを読み取ります。また、JAN-13はデータ桁数が固定のため桁数の指定は行いません。どのフォーマットで出力するかを指定します。商品コード用の出力フォーマットが設定されている、「フォーマット2」のバーコードを読み取ります。これで「JAN標準コードを読んだらフォーマット2で出力する」という商品コード出力用のデータ種別が設定されました。

行き先コード出力用データ種別の設定内容

読み取りデータのコード体系 (JAN-13)	読み取りデータの桁数 (指定せず)	出力フォーマット (フォーマット2)
---------------------------	----------------------	-----------------------

- ・フィールド出力機能の切り替え (P.4-39)
「フォーマット切り替え出力」のバーコードを読み取ってフィールド出力を許可します。

この入力作業の場合、指定されたデータ種別に一致すれば必ず指定のフォーマットで出力を行います。そのため、行き先コードを入力するべきところでJAN標準コードを読ん
でしまうと、商品コードの出力と誤ったセルの移動を行っ
てしまう等の不具合が起こりますので、バーコードを読み
取る順番には注意を払う必要があります。また、送信速度
の設定が速すぎると表計算ソフトへの入力データが欠ける
等の不具合が起こることがあります。その場合は送信速度
の設定を調整して下さい。

3-2-4 フィールド出力機能の設定

A. フィールド出力の使用にあたって必要な設定

設定に関する詳細は以下の表をご覧ください。

設定内容	出力形式 ノーマル出力	フィールド出力	
		固定フォーマット出力	フォーマット切り替え出力
データフォーマットの設定	-	フォーマット0の設定	フォーマット1からフォーマット5の設定
読み取りデータ種別の設定	-	-	データ種別1からデータ種別5の設定
出力機能の切り替え	禁止	固定フォーマット出力	フォーマット切り替え出力

B. データフォーマットの設定の方法

フィールド出力時の 出力形式	固定フォーマット出力	フォーマット切り替え出力
設定手順		
設定開始	フォーマット設定開始を読み取る	
フォーマットNoの指定	フォーマット0を読み取る	フォーマット1からフォーマット5より選択して読み取る
読み取りデータ分割方法	テンキバコードにより出力開始桁数と出力文字数を2桁ずつ、計4桁の数を読み取る	
コードタイプキャラクターの付加	コードタイプキャラクター付加を読み取る	
端末コードの付加	改行 / Return、実行 / Enter、TAB、より選択して読み取る	
ADD ONデータの付加	AO1からAO6より選択して読み取る (別途ADD ONデータの登録が必要)	
設定終了	フォーマット設定終了を読み取る	

各項目5回
まで任意
の順番に
設定可

C. 読み取りデータ種別の設定の方法

設定開始 (データ種別Noの指定)	データ種別1からデータ種別5より選択して読み取る
読み取りデータのコード体系指定	NW-7、CODE39、インターリフト2of5、インダストリアル2of5、JAN / EAN-13・UPC-A、JAN / EAN-8、UPC-E、UPC-D3、CODE93、CODE128より選択して読み取る
読み取りデータの桁数指定	テンキバコードにより2桁の数を読み取る (ただし、JAN、EAN、UPC系の桁数固定の場合は不要)
設定終了 (出力フォーマットの指定)	フォーマット1からフォーマット5より選択して読み取る

D. 出力切り替えの設定方法

出力形式	ノーマル出力	固定フォーマット出力	フォーマット切り替え出力
設定内容			
出力機能の切り替え	禁止	許可 (固定フォーマット出力)	許可 (フォーマット切り替え出力)

上記、表の中の網掛け部分はコマンドバーコードとなります。

第4章

コマンド

4-1 コマンド概要

では、コマンドバーコードを読み取ることによって下表のようなコマンドを設定することができます。一度設定されたコマンドはメモリスイッチに記憶されますので、電源をOFFにして再度電源をONにした時でも新たに設定し直す必要はありません。

4-1-1 コマンド一覧表

出力方法に関する説明は「第3章 データについて」をご覧ください。

コマンド内容	ノーマル出力	フィールド出力		ページ
		固定フォーマット	フォーマット切替	
読み取りコードの設定			×	4-5
読み取り桁数の設定			×	4-9
スタート・ストップ キャラクタの出力の有無の設定		×	×	4-12
コード タイプ キャラクタの出力の有無の設定		×	×	4-13
チェックビットの出力の有無の設定		×	×	4-15
終端コードの出力の設定		×	×	4-16
NW-7とNW-7HEXの切り替え				4-17
フルアスキーモードの切り替え		×	×	4-18
送信速度の選択				4-19
コンピュータ本体立ち上がり時のモード選択				4-20
MS-WINDOWS、OS/2モードの切り替え				4-22
エミュレーションモードとノーマルモードの切り替え				4-24
Macintosh、入力メニューの切り替え				4-25
スキャナボタンと本体ボタンの切り替え				4-26
ボタン音量の選択				4-27
本体内蔵ボタン音程の選択				4-28
トリガスイッチモードの切り替え				4-29
ファンクションバナーコード機能の切り替え				4-30
ファンクションバナーコードの登録				4-31
ADD ON機能の切り替え		×	×	4-34
ADD ONデータの登録				4-36
フィールド出力機能の切り替え				4-39
フィールド出力時のデータフォーマットの設定	×			4-40
フォーマット切り替え出力時の読み取りデータ種別設定	×	×		4-44
メモリスイッチの初期化				4-49
メモリスイッチの設定内容の表示				4-51

(○ = 設定有効 × = 設定無効)

4-1-2 コマンドの設定

各コマンドはバーコードを読み取って設定します。設定の手順は以下の通りです。

接続

「2-1-2 接続方法」に従い、コンピュータと を接続します。

セットアップモードに入る

本体底面のセットアップスイッチを1秒以上押し続けるとセットアップモードに入ります。セットアップモードに入るとブザーが「ピー」と鳴り、セットアップモードINのLEDが点灯します。

コマンドバーコードを読む

設定したいコマンドバーコードを読み取ります。

設定が終了するとブザーが「ピー」と鳴ります。

コマンド入力に誤りがあればエラーブザーが「ピピピッ」と鳴ります。

設定に必要なだけコマンドバーコードを読んで下さい。ただしセットアップモードではコマンドバーコード以外のバーコードは読めません。

セットアップモードの解除

下記のコマンドバーコード「SET OFF」を読むか、本体底面のセットアップスイッチを再び1秒以上押し続けるとセットアップモードは解除されます。



SET OFF

コマンドバーコード「SET OFF」は1つのコマンドの設定途中では読めません。設定が終了してから読んで下さい。

設定終了

セットアップモードを解除すると設定が完了します。

一度設定した内容はメモリスイッチに記憶されますので電源をOFFにして再度ONにした時でも新たに設定し直す必要はありません。

4-2 各コマンドの説明

コマンドの基本的な設定手順は「4-1-2 コマンドの設定」をご覧ください。コマンドによっては、複数のコマンドバーコードを読み取って設定するものがありますので、各コマンドの説明をよくお読み下さい。出荷時の設定内容は記載されているコマンドバーコードに 印を付けることで示しています。

読み取りコードの設定

《機能》 コード体系ごとにバーコード読み取り許可 / 禁止の設定をします。

《説明》 読み取り可能なバーコードはNW-7(またはNW-7HEX)、CODE39、インターリブド2of5、インダストリアル2of5、JAN/EAN/UPC-A/UPC-E、UPC-D3、CODE93、CODE128の8種類です。これらの各コード体系ごとに読み取り許可 / 禁止を設定して下さい。

その他に「全コード体系読み取り許可」と「全コード体系読み取り禁止」があります。

全てのバーコードを読み取りたい場合は「全コード体系読み取り許可」を、特定のコード体系だけを読み取りたい場合はそのコード体系の「読み取り許可」のバーコードを読み取り、他のコード体系は「読み取り禁止」に設定して下さい。初期設定は「全コード体系読み取り許可」です。

例えば、NW-7だけを「読み取り許可」としたい場合、以下の2通りの設定方法があります。

(A)NW-7以外の全てのコード体系を「禁止」に設定する。

(B)一度「全コード体系読み取り禁止」に設定し、NW-7のみ「読み取り許可」に設定する。

CODE39、インターリブド2of5、インダストリアル2of5の「読み取り許可」には、「チェックデジットの照合有り」と「チェックデジットの照合無し」の2種類あります。

「C/D（チェックデジット）照合有り」
C/Dが付いているバーコードのみを読み取り、C/Dの照合が正しいものだけ出力する

「C/D照合無し」
C/Dが付いていても、付いていなくても照合を行わず、コード体系が合致していれば出力する

「全コード体系の読み取り許可」はCODE39、インターリブド2of5、インダストリアル2of5については「チェックデジットの照合無しの読み取り許可」となります。



データ出力方法が「フォーマット切り替え出力」を使用する場合、「読み取りコードの設定」と「読み取り桁数の設定」のコマンドは無効となります。
逆に「ノーマル出力」または「フィールド出力の固定フォーマット出力」使用時は「フォーマット切り替え出力時のデータ種別設定」は無効となります。詳しい説明は「第3章 データについて」を参照して下さい。

《バーコード》



全コード 体系読み取り許可



全コード 体系読み取り禁止



NW-7読み取り許可



NW-7読み取り禁止



CODE39C/D照合無し of の読み取り許可



CODE39C/D照合有りの読み取り許可



CODE39読み取り禁止



インターリーブド 2of5C/D照合無し of の読み取り許可



インターリーブド 2of5C/D照合有りの読み取り許可



インターリーブド 2of5読み取り禁止



インダストリアル2of5C/D照合無し of の読み取り許可



インダストリアル2of5C/D照合有りの読み取り許可



インダストリアル2of5読み取り禁止

初期設定



JAN、EAN、UPC-A/E読み取り許可



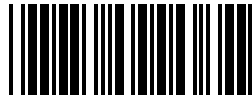
JAN、EAN、UPC-A/E読み取り禁止



UPC-D3読み取り許可



UPC-D3読み取り禁止



CODE93読み取り許可



CODE93読み取り禁止



CODE128読み取り許可



CODE128読み取り禁止

読み取り桁数の設定

《機能》	読み取れるバーコードの桁数を設定します。
《説明》	<p>このコマンドで指定された桁数のバーコードのみ読み取りを行ないます。設定は01～99の2桁で行ない、00を指定すると桁数に関係なく読み取れます。また、この場合の桁数とは、スタート・ストップキャラクタ、チェックデジットも含めます。ただし、「読み取りコードの設定」で指定されたバーコード体系に対してのみ有効です。</p> <p>初期設定では、読み取り桁数は設定されていません。</p> <p>JAN、EAN、UPC-A/E、UPC-D3の桁数は固定ですので、このコマンドが有効なバーコード体系はNW-7、CODE39、<u>インターリブド2of5</u>、<u>インダストリアル2of5</u>、<u>CODE93</u>、<u>CODE128</u>のみとなります。</p> <p>各コード体系ごとに3つまで桁数指定が可能です。</p>
《設定方法》	<p>「読み取り桁数設定開始」のコマンドバーコードを読み取って下さい。</p> <p>設定したいコード体系を、コード体系指定バーコードから選択して読み取って下さい。</p> <p>桁数をテンキーバーコードから読み取って指定して下さい。01～99の2桁で行ない、複数設定する場合は間を「,」で区切って下さい。3つの桁数指定のうち、1つでも00を指定すると、そのコード体系に関しての他の2つの桁数指定は無効となります。</p> <p>「読み取り桁数設定終了」のコマンドバーコードを読み取って終了して下さい。</p>

【設定例】

CODE39の読み取りを8桁と12桁と15桁のバーコードに限定する場合。

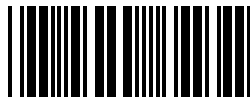
「読み取り桁数設定開始」のコマンドバーコードを読み取って下さい。

「CODE39」をコード体系指定バーコードから選択して読み取って下さい。

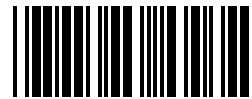
「0」「8」「,」「1」「2」「,」「1」「5」の順にテンキーバーコードからデータを読み取って下さい。

「読み取り桁数設定終了」のコマンドバーコードを読み取って下さい。

《バーコード》



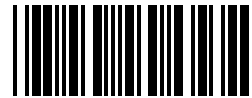
NW-7



CODE39



インターリプト 2of5



インダ ストリアル2of5



CODE93



CODE128



読み取り桁数設定開始



読み取り桁数設定終了



データ出力方法が「フォーマット切り替え出力」を使用する場合、「読み取りコードの設定」と「読み取り桁数の設定」のコマンドは無効となります。逆に「ノーマル出力」または「フィールド出力の固定フォーマット出力」使用時は「フォーマット切り替え出力時のデータ種別設定」は無効となります。詳しい説明は「第3章 データについて」を参照して下さい。

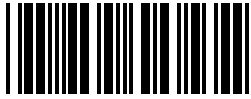
《テンキーバーコード》



0



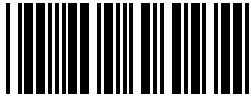
1



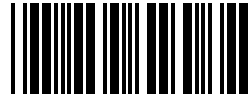
2



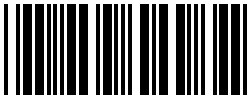
3



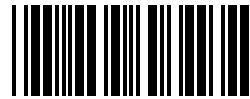
4



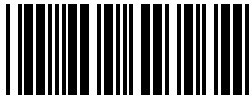
5



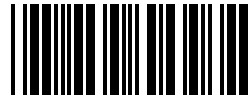
6



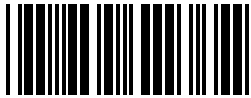
7



8



9



/

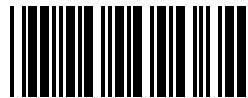
スタート・ストップキャラクタの出力の有無の設定

《機能》 スタート・ストップキャラクタを付けて出力するか、付けないで出力するかを設定します。

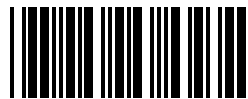
《説明》 NW-7、NW-7HEXの「a」「b」「c」「d」およびCODE39の「*」について有効になります。ただし、NW-7、NW-7HEX、CODE39を別々に設定することはできません。

例えば「a12345a」というバーコードを読んだ場合、「付ける」に設定していると出力されるデータは「a12345a」、
「付けない」に設定していると出力されるデータは「12345」となります。

《バーコード》



付ける



付けない

初期設定



この設定は、データ出力方法がノーマル出力の場合のみ有効です。

旧式のIBM ThinkPadや旧式の日立FLORAノート機「分類タイプ3（ディップスイッチL-1、L-2）の機種」をご使用の場合、CODE39のみ有効です。

コードタイプキャラクタの出力の有無の設定

《機能》 読み取りデータの先頭にコードタイプキャラクタを付けて出力するか、付けずに出力するかを設定します。

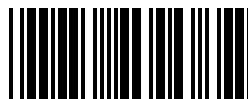
《説明》 読み取りデータの前にコードタイプキャラクタを付けることにより、コードの種類を識別することができます。

コードタイプキャラクタ	読み取りコード
N	NW-7
H	NW-7HEX
C	CODE39
T	インターリブド 2of5
D	インダストリアル2of5
J	JAN-13、EAN-13、UPC-A
S	JAN-8、EAN-8
E	UPC-E
3	UPC-D3
9	CODE93
1	CODE128

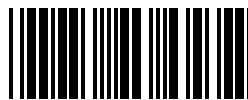


旧式のIBM ThinkPadや旧式の日立FLORAノート機「分類タイプ3（ディップスイッチL-1、L-2）の機種」をご使用の場合、UPC-D3、CODE93、CODE128 以外は出力できません。

《バーコード》



付ける



付けない

初期設定



この設定はデータ出力方法が「ノーマル出力」の時のみ有効です。
「フィールド出力」使用時にコードタイプキャラクタを付加したい場合は「フィールド出力時のデータフォーマット設定」のコマンドで行なって下さい。

チェックデジットの出力の有無の設定

《機能》 チェックデジットを付けて出力するか、付けずに出力するかを設定します。

《説明》 JAN、EAN、UPC-A/Eを読んだ時、またはCODE39、インターリブド2of5、インダストリアル2of5をチェックデジット照合有りに設定して読んだ時に有効となります。

《バーコード》



付ける



付けない

初期設定





この設定はデータ出力方法が「ノーマル出力」の場合のみ有効です。

旧式のIBM ThinkPadや旧式の日立FLORAノート機「分類タイプ3（ディップスイッチL-1、L-2）の機種」をご使用の場合、CODE39のチェックデジットがテンキーから入力可能なキャラクタ以外の場合、「出力する」に設定してもチェックデジットは出力されません。

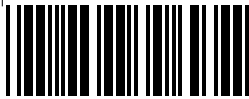
入力可能キャラクタ：0～9、+、-、*、/、.、 「CR」

端末コードの出力の設定

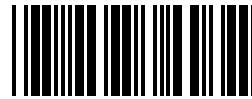
《機能》 端末コードを付けて出力するか、付けずに出力するかを設定します。また、付ける場合は「改行 / Return」( キー)、「実行 / Enter」(IBM PS/55、3477 等の旧式端末用に使用)、「TAB」、「」の中から選んで下さい。

《説明》 読み取ったバーコードデータをコンピュータ本体に送る時に、そのデータの最後に端末コードを付けるか、付けずに設定します。

《バーコード》



改行 / Return



実行 / Enter




TAB



付けない

初期設定



DOS/V 機の  キーに相当する設定は「改行 / Return」となりますのでご注意ください。

コンピュータがPC-98シリーズ[互換機含む]の場合は「実行 / Enter」に設定しても「改行 / Return」と同様に扱われます。

旧式のIBM ThinkPadや旧式の日立FLORAノート機「分類タイプ3 (ディップスイッチL-1、L-2)」の機種をご使用の場合、端末コードの種類は「改行 / Return」のみとなります。

この設定は、データ出力方法がノーマル出力の場合のみ有効です。フィールド出力使用時に端末コードを付加したい場合は「フィールド出力時のデータフォーマット設定」のコマンドバーコードにより設定を行って下さい。

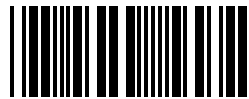
NW-7とNW-7HEXの切り替え

《機能》 読み取りコードの選択で、全コード体系読み取り許可、またはNW-7の読み取りを許可した場合、NW-7とNW-7HEXの切り替えをします。

《説明》 NW-7HEXとは、NW-7の特殊キャラクタを下記のように対応させたものです。数字およびスタート・ストップキャラクタは同じです。

NW-7 特殊キャラクタ	NW-7HEX 対応キャラクタ
-	A
\$	B
.	C
/	D
:	E
+	F

《バーコード》



NW-7



NW-7HEX

初期設定



旧式のIBM ThinkPadや旧式の日立FLORAノート機「分類タイプ3（ディップスイッチL-1、L-2）の機種」をご使用の場合、NW-7HEXのアルファベット、NW-7の\$、: は出力できません。

フルアスキーモードの切り替え

《機能》 フルアスキーモード許可にするか、禁止にするかを設定します。

《説明》 フルアスキーモードとはアスキー文字をCODE39のシンボル文字（\$、/、%、+）とアルファベットの組み合わせで表現できるようにしたものです。詳細については「付録・フルアスキーモードとは」をご覧ください。

《バーコード》



許可



禁止

初期設定



この設定はデータ出力方法が「ノーマル出力」の時のみ有効です。

「フィールド出力」使用時は無効となりますのでご注意ください。

旧式のIBM ThinkPadや旧式の日立FLORAノート機「分類タイプ3（ディップスイッチL-1、L-2）の機種」をご使用の場合、テンキーから入力可能なキャラクターのみ有効です。

入力可能キャラクター：0～9、+、-、*、/、..、「CR」

送信速度の選択

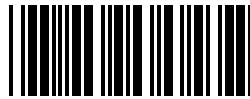
《機能》 5段階の送信速度の変更が可能です。

《説明》 通常は送信速度を変更する必要はありませんが、アプリケーションソフトによってはバーコードを読んだときにデータが欠けることがあります。その場合には送信速度を遅くして下さい。

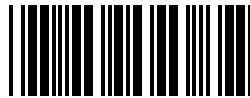
速い



1



2



3



4

遅い



5

初期設定



Macintoshで送信速度を遅くして使用すると、出力キャラクターがリピートしてしまう場合があります。Macintoshのコントロールパネルで、キーボードのリピート開始時間を遅く設定してご使用ください。

コンピュータ本体立ち上がり時のモード選択

- 《機能》 ご使用になるコンピュータの立ち上がり時のモードに合わせ、Touch7 のモードを切り替えます。
- 《説明》 (A)Macintoshを使用する場合
CAPS ONの状態を入力するアプリケーションを使用する場合
CAPS ON
- CAPSの状態に関係なく入力できるアプリケーションを使用する場合
CAPS OFF
- (B)Macintosh以外を使用する場合
(B-1)デスクトップ型で使用する場合
(a)MS-WINDOWS、OS/2（その他マルチウィンドウ環境）を使用する場合。（「MS-WINDOWS、OS/2モード」許可の場合）
- 本体が英小文字入力の時にTouch7 を使用したい場合
CAPS OFF
- 本体が英大文字入力の時にTouch7 を使用したい場合
CAPS ON
- (b)MS-WINDOWS、OS/2（その他マルチウィンドウ環境）を使用しない場合。（「MS-WINDOWS、OS/2モード」禁止の場合）
CAPS OFF

(B-2) ノート型で使用する場合

本体が英小文字入力の時にTouch7 を使用したい場合
CAPS OFF

本体が英大文字入力の時にTouch7 を使用したい場合
CAPS ON



- ・この設定が間違っていると大文字と小文字が反転する等の文字化けが生じます。
- ・この設定は次回立ち上げ時より有効です。
- ・「MS-WINDOWS、OS/2モードの切り替え」と「本体立ち上がり時のモード選択」の両設定が正しくないとデータが正しく入力されません。

《バーコード》



CAPS ON / 英大 / CAPS / CAPS LOCK



CAPS OFF / 英小 / 英数 / CAPS 解除

初期設定

MS-WINDOWS、OS/2モードの切り替え

《説明》 Touch7 ではキーボードのCAPS-ON/OFF の状態を常に監視し、出力データ（アルファベット）のステータス（大文字 / 小文字の状態）に反映させる / 反映させないを選択することができます。

(A)デスクトップ型で使用する場合

(a) 「許可」に設定した場合

CAPS-ON/OFF の状態を出力データに反映させません。出力データ（アルファベット）についての大文字 / 小文字ステータスは、前項「コンピュータ立ち上がり時のモード選択」とCAPSの状態に依存します。その関連は下表のようになります。

コンピュータ本体立ち上げ時のモード選択	キーボードのCAPS状態	大文字 / 小文字の状態 (キーボード入力との比較)	例 バーコードデータ “ABC”出力時
CAPS-OFF	CAPS-OFF	反転	“ABC”
	CAPS-ON		“abc”
CAPS-ON	CAPS-OFF	同じ	“abc”
	CAPS-ON		“ABC”



運用中にバーコードデータが欠ける場合、大文字 / 小文字の反転が発生する場合、入力が不能となる場合は以下の設定で解決することがあります。但し大文字 / 小文字の状態はCAPSの状態に依存します。

コンピュータ本体立ち上がり時のモード選択	CAPS-ON
MS-WINDOWS、OS/2モードの切り替え	「許可」

(b) 「禁止」に設定した場合

CAPS-ON/OFF の状態を出力データに反映させます。「コンピュータ立ち上がり時のモード選択」はCAPS-OFF にして下さい。

(B) ノート型で使用する場合
以下の設定にして下さい。

コンピュータ本体立ち上がり時のモード選択	CAPS-OFF
MS-WINDOWS、OS/2モードの切り替え	「禁止」

但し、機種によってはCAPS-ON/OFFの状態が出力データに反映されない場合があります。

《バーコード》



許可



禁止

- ・ この設定はMacintoshでは無効です。

エミュレーションモードとノーマルモードの切り替え

《機能》 エミュレーションモードとノーマルモードの切り替えをします。

《説明》 PS/55でエミュレーションソフトを使用する場合や3477を使用する場合は、キーボードの入力モード切り替えキーの操作が変わり、Touch7 の出力データにも影響が出る場合があります。このような入力モード切り替えキーの変化に対応させるのがエミュレーションモードです。



・エミュレーションモードに設定した場合、ご使用の状況によって異なりますが、バーコードを読んだ時にデータが欠けることがあります。その場合にはご使用の送信速度より遅く設定して下さい。送信速度はP.4-19を参照して下さい。

・「エミュレーションモードとノーマルモードの切り替え」の設定は、以下のコンピュータのみ有効です。

IBM PS/55シリーズでディップスイッチの設定が(G)の機種

IBM 3477でディップスイッチの設定が(I)(J)(K)の機種

《バーコード》



ノーマルモード



エミュレーションモード

初期設定

Macintosh、入力メニューの切り替え

《機能》 Macintosh本体での入力メニューの切り替えに合わせて、Touch7 のモードを設定します。

《説明》 MacintoshでJISキーボード使用の場合、ホストコンピュータの入力メニューの切り替えに合わせてTouch7 のモードを設定します。このモード設定により、ホストコンピュータで選択した入力メニューに対応したデータを出力するようになります。

(A) 入力メニューを『Roman-JIS』にした場合
「Roman-JISモード」に設定して下さい。

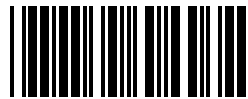
(B) 入力メニューを『ことえり（漢字Talk 7付属の日本語入力プログラム）』、または『U.S.』にした場合
「非Roman-JISモード」に設定して下さい。



・ことえり以外の日本語入力プログラムを使用する場合、お使いになる日本語入力プログラムによって設定が異なることがあります。その場合は、正しいデータ入力可能な方のモードでご使用下さい。

・「Macintosh、入力メニューの切り替え」の設定は、ディスプレイスイッチの設定が（N-2）の場合にのみ有効です。

《バーコード》



Roman-JISモード



非Roman-JISモード

初期設定

スキャナーブザーと本体ブザーの切り替え

《機能》 スキャナー内蔵のブザーを使用するか、本体内蔵のブザーを使用するかを設定を行ないます。

《バーコード》



本体内蔵ブザー



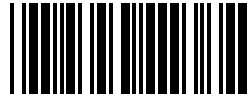
スキャナー内蔵ブザー

ブザー音量の選択

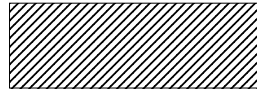
《機能》 バーコード読み取り時の本体、またはスキャナーのブザー音量の調整をします。三段階の変更が可能です。

《説明》 大・中・小の三段階の設定をします。設定のバーコードを一回読むごとに、大 中 小 大・・・と繰り返します。出荷時設定は「大」です。

《バーコード》



本体内蔵ブザー音量の調整



スキャナー内蔵ブザー音量の調整



スキャナーブザーの音量調整はセットアップモードに関係なく、上記のバーコードを読み取ればいつでも音量は変更されます。また、「メモリスイッチの初期化」や電源を切って再度電源を入れ直した時にも設定は変わりません。

本体内蔵ブザー音程の選択

《機能》 Touch7 本体のブザーの音程を3段階から選択します。

《説明》 高・中・低の3段階の設定をします。設定のバーコードを一回読むごとに、高 中 低 高・・・と繰り返します。出荷時設定は「中」です。

《バーコード》



本体内蔵 ブザー音程の調整

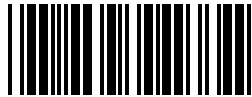
スキャナーのブザーの音程は変更されません。

トリガスイッチモードの切り替え

《機能》 スキャナーの6つのトリガスイッチモードの切り替えを行います。

《説明》 Touch7 のスキャナーは読み取りの際、用途に応じて6つのモードを選択できます。詳しい説明は「1-3 トリガスイッチ」を参照して下さい。

《バーコード》



オートパワーオフモード



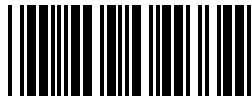
オートオフモード



モニターモード



オルタネートスイッチモード



ライトモード



連続読み取りモード

トリガスイッチモードは、セットアップモードを抜けてから設定の切り替えが行なわれます。

ファンクションバーコード機能の切り替え

《機能》 ファンクションバーコードの使用を許可するか、禁止するかの切り替えを行います。ファンクションバーコードの詳細な説明は「第3章 データについて」を参照して下さい。

《バーコード》



許可



禁止

初期設定



ファンクションバーコード機能「許可」に設定した場合、CODE39の「+%1」～「+%8」のバーコードを読み取ると、ファンクションバーコード「F1」～「F8」の登録データを出力します。

ファンクションバーコードの登録

《機能》 ファンクションバーコード読み取り時の出力データを登録します。登録件数はF1～F8までの8件です。ファンクションバーコードの詳しい説明は「第3章 データについて」を参照して下さい。

《登録方法》 「ファンクションバーコード登録開始」のバーコードを読み取って下さい。

登録させたいファンクションバーコード「F1～F8」を選択して読み取って下さい。読み取るとキー入力を促すブザーが「ピッピッピッ…」と断続的に鳴動します。

登録するデータをキーボードから入力して下さい。入力を開始するとブザーの鳴動は停止します。

入力する時のキーボード入力の間隔の時間もそのまま登録されますのでご注意ください。

「ファンクションバーコード登録終了」のバーコードを読み取って登録を終了して下さい。この時、メモリが一杯になるとエラーブザーが「ピピピッ」と鳴動します。

(注1)

キーボード入力を間違えた場合は一度 で登録を終了し、もう一度 から始めて下さい。

登録データの削除方法

以下の順にバーコードを読み取って下さい。

「ファンクションバーコード登録開始」

削除したいファンクションバーコード「F1～F8」

「ファンクションバーコード登録終了」

(注1)

エラーブザーが鳴ったら

メモリが一杯になり、エラーブザーが鳴った場合、以下の方法でメモリの登録内容を減らして下さい。

「ファンクションバーコード登録開始」のバーコードを読んで下さい。

内容を減らしたいファンクションバーコードを読んで下さい。

エラーブザーが鳴った時よりも登録データを減らして入力して下さい。それでもエラーブザーが鳴る場合はデータを更に減らして、もう一度やり直して下さい。



ファンクションデータの登録中はセットアップモードを抜けることはできません。登録を終了してから抜けて下さい。

《バーコード》



ファンクションコード登録開始



ファンクションコード登録終了



F1



F2



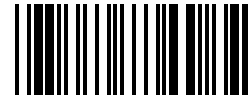
F3



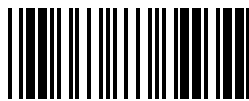
F4



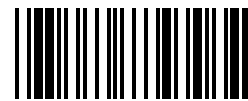
F5



F6



F7



F8

ADD ON機能の切り替え

《機能》 ADD ON機能の使用を許可するか、禁止するかの切り替えを行いません。ADD ON機能の詳しい説明は「第3章 データについて」を参照して下さい。

《説明》 (A) 許可する場合
読み取りデータの前に付加するなら「前ADD ON許可」を、データの後に付加するなら「後ADD ON許可」を読み取って下さい。

付加したいデータの登録してあるADD ONバーコードAO1～AO6をバーコードメニューから選択して読んで下さい。

(B) 禁止する場合
「ADD ON禁止」のバーコードを読み取って下さい。

付加データの変更
前または後のどちらかのデータを変更したい場合、変更したい方について(A)を実行して下さい。

前または後のデータを「禁止」にする場合
前または後のどちらかのデータを「禁止」にしたい場合、(B)を実行し一度両方「禁止」に設定してから再び(A)を実行して下さい。

この設定はデータ出力方法が「ノーマル出力」の場合のみ有効となります。

《バーコード》



前ADD ON許可



禁止



後ADD ON許可

初期設定



ADD ONデータはバーコードデータの前と後にAO1～AO6の中から1件ずつ付加できます。前と後に同じデータを付加することも可能です。

フォーマット

ADD ONデータを付加する場合のTouch7 の出力データフォーマットは以下の通りです。

コードタイプ キャラクタ	ADD ON データ	読み取り データ	ADD ON データ	終端コード
-----------------	---------------	-------------	---------------	-------

(ノーマル出力で、コードタイプキャラクタと終端コードを付加する場合)

ADD ONデータの登録

《機能》 ADD ONデータを登録します。登録件数はAO1～AO6までの6件です。ADD ON機能の詳しい説明は「第3章 データについて」を参照して下さい。

《登録方法》 「ADD ON登録開始」のバーコードを読み取って下さい。

登録させたいADD ONバーコード「AO1～AO6」を選択して読み取って下さい。読み取るとキー入力を促すブザーが「ピッピッピッ…」と断続的に鳴動します。

登録するデータをキーボードから入力して下さい。入力を開始するとブザーの鳴動は停止します。ファンクションバーコード機能と違い、キー押下間隔の時間は登録されません。

「ADD ON登録終了」のバーコードを読み取って登録を終了して下さい。この時、メモリが一杯になるとエラーブザーが「ピピピッ」と鳴動します。

(注1)

キーボード入力を間違えた場合は、一度 で登録を終了し、もう一度 から始めて下さい。

登録データの削除方法

以下の順にバーコードを読み取って下さい。

「ADD ON登録開始」

削除したいADD ONバーコード「AO1～AO6」

「ADD ON登録終了」

(注1)

エラーブザーが鳴ったら

メモリが一杯になり、エラーブザーが鳴った場合、以下の方法でメモリの登録内容を減らして下さい。

「ADD ON登録開始」のバーコードを読んで下さい。

内容を減らしたいADD ONバーコードを読んで下さい。

エラーブザーが鳴った時よりも登録データを減らして入力して下さい。それでもエラーブザーが鳴る場合はデータを更に減らして、もう一度やり直して下さい。



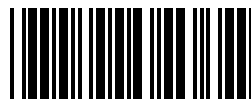
ADD ONデータの登録中はセットアップモードを抜けることはできません。登録を終了してから抜けて下さい。

第4章 コマンド

《バーコード》



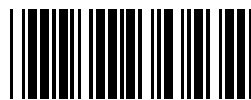
ADD ON登録開始



ADD ON登録終了



AO1



AO2



AO3



AO4



AO5



AO6

フィールド出力機能の切り替え

《機能》 フィールド出力機能の使用を許可するか、禁止する（ノーマル出力）かの切り替えを行います。許可するなら、「固定フォーマット出力」か「フォーマット切り替え出力」かを設定します。フィールド出力機能の詳しい説明は「第3章 データについて」を参照して下さい。

《バーコード》

許可（フィールド出力）



固定フォーマット出力



フォーマット切り替え出力

禁止（ノーマル出力）



初期設定



出力方法の詳しい説明は「第3章 データについて」をご覧ください。

フィールド出力時のデータフォーマットの設定

《機能》 フィールド出力時の読み取りデータの出力フォーマットを設定します。固定フォーマット出力用に1種類(フォーマット0)とフォーマット切り替え出力用に5種類(フォーマット1~5)設定できます。設定内容は 読み取りデータの分割方法、コードタイプキャラクタの付加、 端末コードの付加、ADD ONデータの付加、の4項目です。(「第3章データについて」参照)

《設定方法》 読み取りデータの出力フォーマットの構成順に入力して下さい。

「フォーマット設定開始」のコマンドバーコードを読み取って下さい。

固定フォーマット出力用の設定の場合は「フォーマット0」を、フォーマット切り替え出力用の設定の場合は「フォーマット1~5」のバーコードを選択して読み取って下さい。

設定したいフォーマットの構成の順に、以下の項目を必要なだけ入力して下さい。入力できる回数は、1つのフォーマットに対し各項目5回までです。

(a) 読み取りデータの分割方法

テンキーバーコードで出力開始桁数と出力文字数を各2桁(01~99)で入力して下さい。"00"を入力するとエラーとなります。例えば、10桁のデータのうち3桁目から6桁目までを出力したい場合は、3桁目から4桁分出力することになるので、出力開始桁数は「03」、出力文字数は「04」となります。



スタート/ストップキャラクタ、チェックデジットも桁数に含めませんので、読み取りデータに付加したくない場合は出力開始桁数と出力文字数で、出力しないよう設定して下さい。

インターリブド2of5の奇数桁データとUPC-Aは先頭に"0"を付加して出力しますので、それも含めた計算をして設定を行なって下さい。

(b) コードタイプキャラクタの付加

付加したい場合のみ「コードタイプキャラクタ付加」のバーコードを読み取って下さい。

(c) 終端コードの付加

付加したい場合のみ「改行/Return」「実行/Enter」「TAB」「
」の中から付加したいコードを選択して読み取って下さい。(＊)

(＊) DOS/V 機の キーに相当する設定は「改行/Return」となります。また、コンピュータがPC-98シリーズ[互換機含む]の場合は「実行/Enter」に設定しても「改行/Return」と同様に扱われます。旧式のIBM ThinkPadや旧式の日立FLORAノート機「分類タイプ3(ディップスイッチL-1、L-2)の機種をご使用の場合、どの終端コードを選択しても「改行/Return」として扱われます。

(d) ADD ONデータの付加

付加したい場合のみ「A01」～「A06」の中から付加したいデータを選択して読み取って下さい。

「フォーマット設定終了」のバーコードを読み取って終了して下さい。

設定フォーマットの削除方法

以下の順にバーコードを読み取って下さい。

「フォーマット設定開始」

削除したいフォーマット番号のバーコード

「フォーマット設定終了」



設定されていない、または削除されたフォーマットでデータを出力すると、読み取りデータはそのままの形(無加工)で出力されます。

読み取りデータの分割方法で指定した必要桁数より、実際に読み取ったデータの桁数が小さいと、エラーブザーが「ピピピッ」と鳴り、出力されません。

【設定例】

読み取りデータが「*0123456789JPN*」の場合に、以下のような出力がされるようにフォーマットを設定する。（固定フォーマットの場合）

コードタイプ キャラクター	ADD ON データ1	2345	改行	JPN	ADD ON データ5	改行
------------------	----------------	------	----	-----	----------------	----

《設定手順》

「フォーマット設定開始」のコマンドバーコードを読み取って下さい。

「フォーマット0」のバーコードを読み取って下さい。

設定例のフォーマット構成の順に、各項目の設定をして下さい。

「コードタイプキャラクタ付加」

「AO1」のADD ONバーコード

テンキーバーコード「0」「4」「0」「4」(4文字目から4桁)

「改行 / Return付加」

テンキーバーコード「1」「2」「0」「3」(12文字目から3桁)

「AO5」のADD ONバーコード

「改行 / Return付加」

「フォーマット設定終了」のコマンドバーコードを読み取って下さい。続けて他のフォーマットの設定も行なう場合は からの手順を繰り返します。



フォーマットの構成の入力を間違えた場合、一度 で設定を終了し、もう一度 からやり直して下さい。データ分割のテンキーバーコードは4回入力しないと次の項目に進めません。

《バーコード》



フォーマット設定開始



フォーマット設定終了



コードタイプキャラクタ付加



改行 / Return



実行 / Enter



TAB



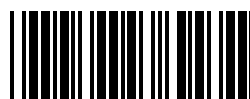
AO1



AO2



AO3



AO4



AO5



AO6

フォーマットNo.バーコードはP.4-47、テンキーバーコードはP.4-48、バーコードを使用して下さい。



ここで使用する「コードタイプキャラクタ付加」「改行 / Return」「実行 / Enter」「TAB」「」のコマンドバーコードはノーマル出力時の設定では使用できません。

フォーマット切り替え出力時の読み取りデータ種別設定

《機能》 フィールド出力の「フォーマット切り替え出力」を使用する場合の、読み取りデータの種別の設定と、それに対応する出力フォーマット（フォーマット1～5）の指定を行いません。データの種別はコード体系と桁数で指定し、5種類まで設定が可能です。ここで設定されたデータ種別に合致したバーコードを読み取った時に出力されるフォーマットを、データ種別ごとに1つ指定します。（詳しい説明は「第3章 データについて」参照）

この設定を行なうことで、読み取ったデータをコード体系と桁数から判断し、あらかじめ指定されているフォーマットでデータを出力します。

指定したデータ種別の設定は全て有効となります。設定を取り消したい場合は次ページの「データ種別の設定の取り消し」を参照して下さい。ただし、データ種別（コード体系、桁数）の設定が重複している場合、データ種別の番号が小さいものが優先されます。

《設定方法》 「データ種別設定1～5」のコマンドバーコードから設定を行なう番号を選択して読み取って下さい。

設定したいデータ種別（コード体系・桁数）をバーコードで入力して下さい。コード体系を選択して1種類を、桁数はテンキーバーコードを使用して01～99までの2桁を入力して下さい。”00”を入力するとエラーとなります。（*）

どのフォーマットで出力するかを指定します。フォーマット切り替え出力用の「フォーマット1～5」のバーコードから1つを選択して読み取って下さい。

ここで設定した桁数と、フォーマットに設定されている桁数が矛盾した場合はエラーブザーが「ピピピッ」と鳴り、設定できません。このエラーの場合のみ からやり直して、矛盾のないフォーマットを設定して下さい。

（*）JAN、EAN、UPC-A/E/D3に関しては桁数の入力はありません。



《設定方法》の で設定した桁数よりも、 で指定するフォーマットの桁数が多いと設定時にエラーとなり、ブザーが「ピピピッ」と鳴ります。

例えば、CODE39の20桁というデータ種別1に、読み取り桁数30桁のフォーマット1を設定しようとしてみます。この時、データ種別1で設定した桁数が、フォーマット1の必要桁数よりも少ないのでエラーとなります。

データ種別1	CODE39	20桁	30桁	フォーマット1	エラー
--------	--------	-----	-----	---------	-----

こういう場合、[データ種別設定の桁数] [フォーマットの必要桁数]となるように設定し直して下さい。

ただし、一度「データ種別設定」と「フォーマット」の組み合わせを設定した後、フォーマットの内容を変更し、「フォーマット」の桁数が「データ種別設定」の桁数より多くなっても、その時点ではエラーとはなりません。バーコードを読み取る時点で読み取りエラーとなり、ブザーが「ピピピッ」と鳴ります。

設定済み	CODE39	20桁	15桁	フォーマット1
	[データ種別設定の桁数]		[フォーマットの必要桁数]	

フォーマットの桁数変更

		25桁	
CODE39	20桁	フォーマット1	

[データ種別設定の桁数] < [フォーマットの必要桁数]となるが、エラーとはならない。しかし、実際に20桁のCODE39を読んだ時、25桁必要なフォーマット1の設定では出力できないのでエラーとなります。

第4章 コマンド

データ種別の設定の取り消し

「データ種別設定1~5」のバーコードから設定を取り消す番号のバーコードを選択して読み取って下さい。

「データ種別設定取り消し」のバーコードを読み取って下さい。

【設定例】

読み取りデータがNW-7で桁数が15桁の場合に、「フォーマット3」に設定されている出力フォーマットで出力する、という内容でデータ種別の”2”に設定したい。

「データ種別設定2」のコマンドバーコードを読み取ります。

「NW-7」をメニューバーコードから読み取って下さい。

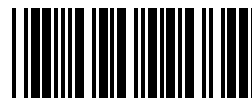
「1」「5」の順にテンキーバーコードを読み取って下さい。

「フォーマット3」のバーコードを読み取って下さい。

《バーコード》



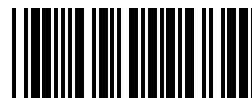
データ種別設定1



データ種別設定2



データ種別設定3



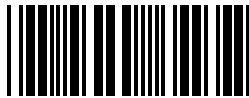
データ種別設定4



データ種別設定5



データ種別設定取消し



NW-7



CODE39



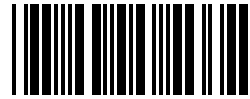
インターリブド 2of5



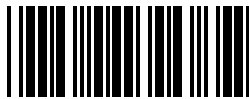
インダ ストリアル2of5



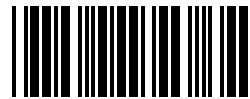
JAN / EAN-13
UPC-A



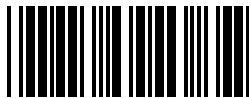
JAN / EAN-8



UPC-E



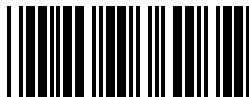
UPC-D3



CODE93



CODE128



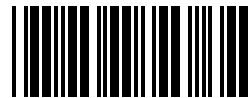
フォーマット0



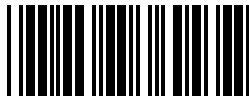
フォーマット1



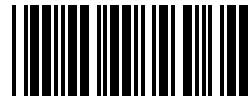
フォーマット2



フォーマット3



フォーマット4



フォーマット5

第4章 コマンド

《テンキーバーコード》



0



1



2



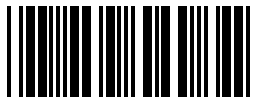
3



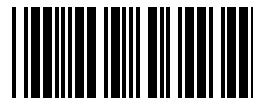
4



5



6



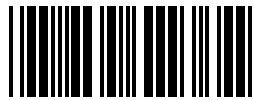
7



8



9



10

メモリスイッチの初期化

《機能》 メモリスイッチの内容を工場出荷時の状態に戻します。

《説明》 初期設定は下表のようになっています。

コマンド内容	出荷時設定
読み取りコードの設定	全コード体系読み取り
読み取り桁数の設定	設定無し
スタートストップキャラクタの出力の有無の設定	付けない
コードタイプキャラクタの出力の有無の設定	付けない
チェックジットの出力の有無の設定	付ける
終端コードの出力の設定	改行/Return
NW-7とNW-7HEXの切り替え	NW-7
フルスキーモードの切り替え	禁止
送信速度の選択	速い「1」
コンピュータ本体立ち上がり時のモード選択	CAPS OFF / 英小 / 英数 / CAPS解除
MS-WINDOWS、OS/2モードの切り替え	禁止
エミュレーションモードとノーマルモードの切り替え	ノーマルモード
Macintosh、入力メニューの切り替え	非Roman-JIS
スキャナボタンと本体ボタンの切り替え	本体側ボタン
ボタン-音量の選択	音量-大
本体内蔵ボタン-音程の選択	音程-中
トリガスイッチモードの切り替え	オートパワーオフ
ファンクションバースコード機能の切り替え	禁止
ファンクションバースコードの登録	登録無し
ADD ON機能の切り替え	禁止
ADD ONデータの登録	登録無し
フィールド出力機能の切り替え	禁止
フィールド出力時のデータフォーマットの設定	設定無し
フォーマット切り替え出力時の読み取りデータ種別設定	設定無し

第4章 コマンド



ファンクションバーコード、ADD ONバーコードの登録内容も全て消えます。

スキャナーのブザー音量は変わりません。

《バーコード》



メモリスイッチの初期化

設定内容の表示

《機能》 設定内容をディスプレイに表示します。

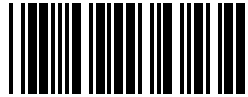
《説明》 このコマンドを実行するとディスプレイ上に設定内容の一覧が表示されます。表示は全部で3種類あります。
WindowsのインストールされたDOS/V機を例に説明します。

Windowsのメモ帳（NOTEPAD）を起動して下さい。
下記のバーコードを読み取って下さい。

《バーコード》



設定内容の表示1



設定内容の表示2



設定内容の表示3

第4章 コマンド

以下のような画面が表示されます。

表示画面1

```
*****MODE DISPLAY 1*****

Keyboard Inline Series
Sigma Ver.2.20 95.11.09
Copyright (C) 1994、1995 Welcat Inc.

(CODE)      (READ)      (LENGTH)
NW-7        disable     09,10,18
CODE39      enable     07,00,00
ITF         c/d enable  10,14,16
IND         disable     00,00,00
JAN         enable
UPC-D3      disable
CODE93      disable     20,24,15
CODE128     enable     00,00,00

START/STOP CHAR. : none
CHECK DIGIT       : add
CODE TYPE CHAR.  : none
TERMINATOR       : kaigyou/Return
NW-7/NW-7HEX    : NW-7HEX
FULL ASCII MODE  : disable
```

表示画面 2

```
*****MODE DISPLAY 2*****

CHAR WAIT TIME   : 1( fast )
CAPS MODE        : caps off/eisyou/eisuu/caps cancel
EMULATION MODE   : normal
WINDOWS , OS/2 MODE : disable
MAC INPUT MENU   : not roman-jis
RING BUZZER      : case
BUZZER VOLUME    : 2 ( mid )
BUZZER TONE      : 3 ( low )
TRIGGER SWITCH   : auto power off
FUNCTION BARCODE  : enable
FUNCTION DATA    : 1 2 3 4 5 6 7 8
                  : 0 0 0 X 0 X X X
ADD ON MODE(F)   : none
ADD ON MODE(R)   : a3
ADD ON DATA     : 1 2 3 4 5 6
                  : 0 0 0 X X 0
FIELD MODE       : fixed format
```



バージョンは、改良のため予告なく更新されますので、表記とは異なる場合があります。

表示画面 3

```
*****MODE DISPLAY 3*****  
  
FORMAT0      : a3,0105,tt,0701,tt,a2,0303,tk  
FORMAT1      : c,a2,0303,tt,a1,0606,tt,a2,1202,tk  
FORMAT2      : none  
FORMAT3      : a1,a2,0205,tk  
FORMAT4      : 0805,tj  
FORMAT5      : c,0110,tk  
  
DATA TYPE1   : NW-7      10 format3  
DATA TYPE2   : CODE128  15 format5  
DATA TYPE3   : NW-7      14 format3  
DATA TYPE4   : none  
DATA TYPE5   : JAN13      format4
```

表示される項目とそのパラメーターの意味は次ページからの一覧表を参照して下さい。

表示項目とパラメータ（表示画面1）

設定内容		パラメータ	パラメータの意味
読み取りコード	コード体系 (CODE)	NW-7 CODE39 ITF IND JAN UPC-D3 CODE93 CODE128	NW-7 CODE39 インターリッド 2of5 インダストリアル2of5 JAN、EAN、UPC-A/E UPC-D3 CODE93 CODE128
	許可/禁止 (READ)	c/d enable enable disable	チェックジット照合有りの読み取り許可 (CODE39、インターリッド 2of5、インダストリアル2of5のみ) 読み取り許可 または チェックジット照合無しの読み取り許可 読み取り禁止
読み取り桁数 (LENGTH)		00 ~ 99	各コード体系ごとで桁数を3つ表示 ・設定無し（何桁でも読む）の場合 00,00,00 ・1つだけ設定の場合、左の1つだけ表示 (例)10,00,00（10桁のみ） ・2つだけ設定の場合、左2つを表示 (例)10,20,00（10桁と20桁）
スタートストップキャラクタの出力 (START/STOP CHAR.)		add none	付加する 付加しない
チェックジットの出力 (CHECK DIGIT)		add none	付加する 付加しない
コードタイプキャラクタの出力 (CODE TYPE CHAR.)		add none	付加する 付加しない
終端コードの出力 (TERMINATOR) (注1)		kaigyou / Return jikkou / Enter tab arrow none	改行 / Return 実行 / Enter TAB 付けない
NW-7 / NW-7HEXの切り替え (NW-7/NW-7HEX)		NW-7 NW-7HEX	NW-7 NW-7HEX
フルアスキーモード (FULL ASCII MODE)		enable disable	可 禁止

(注1) DOS/V 機の Enter ↵ キーに相当する設定は「改行 / Return」となります。また、コンピュータがPC-98シリーズ[互換機含む]の場合は「実行 / Enter」に設定しても「改行 / Return」と同様に扱われます。旧式のIBM ThinkPadや旧式の日立FLORAノート機「分類タイプ3（ディップスイッチL-1、L-2）の機種をご使用の場合、どの終端コードを選択しても「改行 / Return」として扱われます。

表示項目とパラメータ（表示画面2）

設定内容	パラメータ	パラメータの意味
送信速度 (CHAR WAIT TIME)	1 (fast) 2 (mid-fast) 3 (mid) 4 (mid-slow) 5 (slow)	速い ↑ ↓ 遅い
本体立ち上がり 時のモード (CAPS MODE)	caps on / eidai / caps / caps lock caps off / eisyuu / eisuu / caps cancel	CAPS ON / 英大 / CAPS / CAPS LOCK CAPS OFF / 英小 / 英数 / CAPS解除
エミュレーションモード / ノーマルモード (EMULATION MODE) (注2)	normal emulation	ノーマルモード エミュレーションモード
WINDOWS、(注3) OS / 2モード	enable disable	使用許可 使用禁止
Macintosh、 入力メニューの切替 (注4) (MAC INPUT MENU)	not roman-jis roman-jis	非Roman-JIS Roman-JIS
ブザーの切替 (RING BUZZER)	case scanner	本体内蔵ブザー スキャナ内蔵ブザー
ブザー音量の選択 (BUZZER VOLUME)	1 (max) 2 (mid) 3 (min)	大 中 小
ブザー音程の選択 (BUZZER TONE)	1 (high) 2 (mid) 3 (low)	高 中 低
トリガスイッチモード (TRIGGER SWITCH)	auto power off auto off momentary sw alternate sw repeat continue	オートパワーオフ オートオフ モメンタリ オルタネート リピート 連続読み取り
ファンクション機能 (FUNCTION BARCODE)	enable disable	使用許可 使用禁止
ファンクションバーコード (FUNCTION DATA)	または ×	登録済みのファンクションバーコードの番号は、 未登録のものは ×

（注2）エミュレーションモードは一部のIBMコンピュータでのみ有効です。

（注3）WINDOWS、OS/2モードはMacintosh以外で有効です。

（注4）Macintosh、入力メニューの切り替えは、MacintoshでJISキーボード使用時のみ有効です。

第4章 コマンド

設定内容	パラメータ	パラメータの意味
ADD ON機能 (ADD ON MODE) F：前付加 R：後付加	a1 ~ a6 none	付加されるADD ON [®] の番号を 表示します。 使用禁止
ADD ON [®] の番号	または x	登録済みのADD ON [®] の番号は 、 未登録のものは x
フィールド出力機能 の設定 (FIELD MODE)	fixed format change format disable	固定フォーマット出力 フォーマット切り替え出力 禁止（ノーマル出力）

表示項目とパラメータ（表示画面3）

設定内容	パラメータ	パラメータの意味
フォーマット0 (FORMAT0) または フォーマット1～5 (FORMAT 1～5) (注5)	c a1 ~ a6 4桁の数字 tk tj tt ta none	コードタイプ [®] キャラクターの付加 付加されるADD ON [®] の番号を表示 上位2桁：出力開始桁数 下位2桁：出力文字数 付加される終端コード「改行/Return」 付加される終端コード「実行/Enter」 付加される終端コード「TAB」 付加される終端コード「 」 フォーマット設定無し
データ種別1～5 (DATA TYPE 1～5)	NW-7 CODE39 ITF IND JAN13 JAN8 UPC-E UPC-D3 CODE93 CODE128 2桁の数字 format 1～5 none	NW-7 CODE39 インターリブド [®] 2of5 インダストリアル [®] 2of5 JAN / EAN-13、UPC-A JAN / EAN-8 UPC-E UPC-D3 CODE93 CODE128 指定されたデータ [®] 桁数を表示 (JAN / EAN-13、UPC-A、JAN / EAN-8、 UPC-E、UPC-D3を除く) 指定された出力フォーマットを表示 データ種別の設定無し

(注5) フォーマット0は固定フォーマット出力、フォーマット1～5はフォーマット切り替え出力です。

第5章

こんな時は

5-1 正常動作しない時

まずディップスイッチの設定が正しいかどうかを確認して下さい。
正しく設定されていても正常動作しない場合は次の表に従って処置して下さい。

症状	原因	対策
バーコードが読み取れない。	トリガスイッチを押してもスキャナーの照明LEDが赤く点灯しない。	ACケーブルが入っていない。 ACケーブルをコンセントに挿して下さい。
		コンピュータの電源が入っていない。 コンピュータの電源を入れて下さい。
		I/Oケーブルが正しく接続されていない。 ケーブルの型を確認し、確実に接続して下さい。
		スキャナーが正しく接続されていない。 本体のスキャナーコネクタジャックに確実に接続して下さい。
	照明LEDが赤く点灯した状態のスキャナーをバーコードに当てても読み取れない。	「読み取りコードの設定」が正しくない。 読み取らせたいバーコードのコード体系に合わせて設定をやり直して下さい。
		読ませたバーコードと「読み取り桁数の設定」で指定した桁数が一致しない。 読み取らせたいバーコードの桁数に合わせて設定をやり直して下さい。
セットアップモードに入っている。 セットアップモードを抜けて下さい。		
バーコードを読み取るが、データが正しく画面に表示されない。	バーコードを読み取ると「ビビビ」とエラーブザーが鳴動し、表示LEDが赤く点灯する。	「フィールド出力時のデータフォーマットの設定」のデータ分割により必要となる桁数が、読み取ったデータ桁数より多い。 読み取りバーコードの桁数を多くするか、分割の指定をやり直して下さい。 (A)か(B)の方法で実行して下さい。 (A)データ出力方法が「固定フォーマット出力」の場合は読み取り桁数の設定を変更し、「フォーマット切り替え出力」の場合にはデータ種別の指定桁数を変更して下さい。 (B)出力フォーマットの設定でフォーマットの必要桁数を小さくして下さい。
		「フォーマット切り替え出力時の読み取りデータ種別設定」で指定されているデータ種別以外のバーコードを読み取った。 読み取るバーコードに合わせてデータ種別の設定をするか、設定に合ったバーコードを読み取って下さい。
		セットアップモードに入っている。 セットアップモードを抜けて下さい。
	出力されたデータが欠けている。	送信速度が早すぎる。 「送信速度の選択」を遅く設定して下さい。
		「フィールド出力」に設定されていて、データを分割して出力している。 「ノーマル出力」に設定して下さい。
	セットアップモードに入っている状態でコマンドバーコードを読み取ると「ビビビ」とエラーブザーが鳴動し、表示LEDが赤く点灯する。	コマンドバーコード以外のバーコードを読み取った。 コマンドバーコードを読み取って下さい。
コマンドバーコードの入力順序が正しくない。 コマンド入力は順序を確認して正確に入力して下さい。		
「フィールド出力時のフォーマット設定」のデータ分割により必要となる桁数が、「フィールド出力時のデータ種別設定」で指定された桁数より多い。 桁数の指定をフォーマットに合った桁数にするか、桁数の設定に合ったフォーマットを指定して下さい。		

ご質問等ございましたら、この用紙のコピーをとってご使用ください。

FAXお問い合わせ票



株式会社ウェルキャット行 FAX No. 045-474-9815

御社名 _____ ご部署 _____

御氏名 _____ TEL _____ 内線 _____

製品名 キーボードインラインバーコードリーダー

・該当するところに 印を付けて下さい。

型番：Touch7 - (L06 / L10)

ケーブル銘板：PC、FMR、FMRNB、DSV、BMNT、MAC

SER NO. _____ (本体底面のラベルの番号)

・詳しくお書きください。

ご使用のコンピュータ機種（型式まで）： _____

ご使用のOS： _____

ご使用のアプリケーション： _____

お問い合わせ記入欄 （できるだけ詳しくご記入ください）

ご記入がおわかりましたらFAXにてご送付ください。折りかえし弊社よりご連絡申し上げます。

修理を依頼される場合は、下記用紙をコピーし各項目ご記入の上修理品と一緒にご返送ください。



修理依頼票

御社名 _____ ご部署 _____
御氏名 _____ TEL _____ 内線 _____

製品名 キーボードインラインバーコードリーダー

・該当するところに 印を付けて下さい。

型番：Touch7 - (L06 / L10)

ケーブル銘板：PC、FMR、FMRNB、DSV、BMNT、MAC

SER NO. _____ (本体底面のラベルの番号)

・ご購入してから一年以内の場合(無償保証期間内)

保証書：ある 保証書も一緒にご送付ください。無償保証修理とさせていただきます。
ない 有償修理となることがあります。

・ご購入してから一年以上の場合(無償保証期間外)有償修理となります。

ご使用のコンピュータ機種(型式まで)： _____

ご使用のOS： _____

ご使用のアプリケーション： _____

ご使用のバーコードの種類： _____

(出来ればご使用のバ - コ - ドラベルもご送付ください。)

症状 (できるだけ詳しくご記入ください。)

弊社製品の保守期間は、販売終了後5年間です。
ご使用中の製品の販売終了時期は、弊社ホームページ
(<http://www.welcat.co.jp>)にてご確認ください。

付録

フルアスキーモード

フルアスキーモードとは

アスキー文字をCODE39のシンボル文字（特殊キャラクタ：\$、/、+、% 等）とアルファベット26文字の組み合わせで表現するようにしたものです。

フルアスキーモードに設定することによりバーコードでは表現できない制御文字、英小文字等の入力が可能になります。

例えば「ESC」は「%A」、「f」は「+F」となります。

但し、1キャラクタを表現するのに2キャラクタ使用しますのでバーコード自体は長くなります。

設定方法

フルアスキーモードを使用してアスキー文字を出力するには、次の操作が必要です。

先ずコマンド設定を「フルアスキーモード許可」に設定する
次に「+\$」を読み取る

「フルアスキーモード許可」に設定されていても「+\$」を読み取らなければモードに入りません。通常のCODE39を読むのと同じ状態です。

「フルアスキーモード許可」の設定方法については「第4章 コマンド」をご覧ください。

- ・コードタイプキャラクタの出力の有無及びスタート・ストップキャラクタの有無が「付加」に設定されている場合は、フルアスキーモードでの出力データにもそれぞれ付加されます。
- ・「+\$」を読んでフルアスキーモードに入ると、「-\$」を読み取るまでCODE39の読み取りデータには終端コードを付加しません。

解除方法

フルアスキーモードを解除するには「 - \$ 」を読み取ります。

例

次の例に従い、実際にフルアスキーモード許可、禁止に設定して読み取ってみて下さい。

「フルアスキーモード禁止」に設定



出力されるデータ 12+A/A%J

読んだものがそのまま出力されます。

「フルアスキーモード許可」に設定、「 + \$ 」を読んでいない



出力されるデータ 12+A/A%J

フルアスキーモードは「許可」に設定されていますが、「 + \$ 」を読み取っていないので読んだものがそのまま出力されます。

「フルアスキーモード許可」に設定後、「 + \$ 」を読む



出力されるデータ 12!?

フルアスキーモード許可に設定されている状態で「 + \$ 」を読み取った後は英小文字、特殊キャラクタが出力されます。

「 - \$ 」を読み取ると、この状態が解除されフルアスキーモード禁止の時と同じよう出力されます。

フルアスキーキャラクタセット表

ASCII	CODE39	ASCII	CODE39	ASCII	CODE39	ASCII	CODE39
Ctrl+@	%U	SP	Space	@	%V	`	%W
Ctrl+A	\$A	!	/A	A	A	a	+A
Ctrl+B	\$B	"	/B	B	B	b	+B
Ctrl+C	\$C	#	/C	C	C	c	+C
Ctrl+D	\$D	\$	/D	D	D	d	+D
Ctrl+E	\$E	%	/E	E	E	e	+E
Ctrl+F	\$F	&	/F	F	F	f	+F
Ctrl+G	\$G	'	/G	G	G	g	+G
<input type="checkbox"/> BS	\$H	(/H	H	H	h	+H
<input type="checkbox"/> TAB	\$I)	/I	I	I	i	+I
Ctrl+J	\$J	*	/J	J	J	j	+J
Ctrl+K	\$K	+	/K	K	K	k	+K
Ctrl+L	\$L	,	/L	L	L	l	+L
<input type="checkbox"/> ←	\$M	-	-	M	M	m	+M
Ctrl+N	\$N	.	.	N	N	n	+N
Ctrl+O	\$O	/	/O	O	O	o	+O
Ctrl+P	\$P	0	0	P	P	p	+P
Ctrl+Q	\$Q	1	1	Q	Q	q	+Q
Ctrl+R	\$R	2	2	R	R	r	+R
Ctrl+S	\$S	3	3	S	S	s	+S
Ctrl+T	\$T	4	4	T	T	t	+T
Ctrl+U	\$U	5	5	U	U	u	+U
Ctrl+V	\$V	6	6	V	V	v	+V
Ctrl+W	\$W	7	7	W	W	w	+W
Ctrl+X	\$X	8	8	X	X	x	+X
Ctrl+Y	\$Y	9	9	Y	Y	y	+Y
Ctrl+Z	\$Z	:	/Z	Z	Z	z	+Z
<input type="checkbox"/> ESC	%A	;	%F	[%K	{	%P
<input type="checkbox"/>	%B	<	%G	\	%L		%Q
<input type="checkbox"/>	%C	=	%H]	%M	}	%R
<input type="checkbox"/>	%D	>	%I	^	%N	~	%S
<input type="checkbox"/>	%E	?	%J	_	%O	<input type="checkbox"/> DEL	%T,%X, %Y,%Z

[BS]: バックスペースキー [TAB]: タブキー : リターン (改行) キー

[ESC]: エスケープキー [DEL]: デリート (削除) キー □ □ □ □ : 矢印キー

キャラクタペア/Mと/Nは、それぞれマイナス符号とピリオドとしてデコードします。
/P~/Yは、0~9としてデコードします。

サンプルバーコード

1. NW-7HEX



2. NW-7



3. CODE39



4 . CODE39 チェックデジット付き



5 . JAN - 13



6 . JAN - 8



7. UPC - E



8. インターリブド2of5



9. インターリブド2of5 チェックデジット付き



接続機種一覧

最新情報については弊社ホームページをご覧ください。

DOS/Vデスクトップ (1999年以降)

PCメーカー	シリーズ名	機種名	型番	分類	備考
COMPAQ	DESKPRO	590		G	DSV
		EC C566	191221-292		
		EC 6500	168817-293		
		EN P933	470009-435		
		EN SF P800	470002-868		
		EX P667	216003-292		
	Prosignia	320	135155-999		
		330	103756-999		
DELL	Optiplex		XM590	G	DSV
			GXM5120		
			Gxi		
	Dimension	L500cx			
IBM (注1)	Aptiva		2176-H55	G	DSV
		27J	2190-27J		
		BMT	2196-BMT		
	NetVista	A40	6881-50J		
東芝	Dimension		V333c	G	DSV
	EQUIUM	3100	EQ53C/MC2		
		5010	EQ65P/CC3		
日本電気 (注2)	Mate NX		MA66HCN5BDG7	G	DSV
			MA10TMR5BEG7		
			MA10TET5MDF7		
日立	FLORA	FLORA310	PC1DL6-E7224HC00	G	DSV
		FLORA450	PC7WS4		
富士通	FMV	FMV-5200D9M	FMV521D9W1	G	DSV
		FMV-5150DSP	FMV5DSP273		
		FMV-610GTX5	FMV5TXY121		
		FMV-6700TX4	FMV4TXN121		
		FMV-6800SL5	FMV5SLX121		
		FMV-6550CL4	FMV4CLL161		
		FMV-5450ML4	FMV4ML7161		

以下のDOS/Vデスクトップパソコンには接続不可能です。

PCメーカー	シリーズ名	機種名
SONY	VAIO	PCV-LX51G/BP
		PCV-J15
		PCV-R73K
		PCV-MX5GK
富士通	CELSIUS	460

(注1) USB キーボードをご使用の場合、本機の接続によりキーボード入力が可能になることがあります。

(注2) USBキーボードをご使用の場合、バーコード読み取りデータ中の英文字が大文字/小文字の反転を起こすことがあります。

DOS/Vデスクトップ (1998以前)

PCメーカー	シリーズ名	型名	スイッチ	ケーブル	
Canon		A-200GS/25	H	DSV	
COMPAQ	DESKPRO	486s/25m、4/33M、50M、4/66i、4/60M、XE466、XE560、XE590	G		
	PROLINEA	4/25S、4/50、4/66、4/100、4100、575、590			
	PRESARIO	CDS 520、7170、7242、5130			
	PORTABLE	486C/66			
DEC	DecPC	466D2、466Lpv+			
DELL	OPTIPLEX	450S、466/LV、XMT510			
	OMNIPLEX	560			
EPSON	Endeavor	AT-3500			
	VM	466R (Vividy)			
	VT	512R (オフィスシリーズ)			
	PCV	590S			
GATEWAY		P5-133			
HP	Vectra ENVIZEX X	486/33M、XM24/100I (キーボードはPC101/201限定)			H
Olivetti		NIT			G
OMRON		FC55 model11			
Panasonic	Panacom	V21			
SHARP	PC	7900			
SONY	QuaterL	PCX-500VX5、QL-30A			
UNISYS	Advantage	CWV4662			
沖電気	if Station	466/DL			
三洋電機	AXAGE V	MBC-19CVD1			
東芝	J-3100	PV Jモデル	H		
		PV Vモデル、PV2、PV3000			
日立	FLORA1010	DB、DE、DG、DJ、DM	G		
	FLORA3010	DT、DU			
	FLORA	DS1、DM1			
富士通	FMV	425D、433D、450D3、466D、466D3、499D2、499D3、4100C2、4100D4、560D3、560DE、590D2、590DE、590C3、590T2、575D4、5120D5、5133D5、5100C3、5100D5、5120T3、5233T7M、6233D8、SV205、SV235、SIII23、TIV267D、Pliche model220、MVII265、SVII265			
		FMV-TOWNS		FMVTS-HLS1、FMVTW-H2	
三菱電機	Apricot	LS、XEN-PC			

IBMデスクトップ（旧タイプ、端末系）

シリーズ・ 分類	型名・キーボード種別		スイッチ	ケーブル
PS/55	5510	T	G	DSV
	5521	Y		
	5530	T、V、U、SLC		
	5550	S、T		
	5551	R1D、LXC、NAB		
	5560	W		
5570	T			
PS/V	2405	W、Y		
	2406	W (Entry)		
	2408	N (Vision)		
	2410	N、Y		
	2411	N、R (Master)		
PC	6272	14J (PC330GL)		
	6560	J7T (PC340)		
	6571	J5F (PC330-VLH)		
	6587	JU5 (PC350)		
	6860	J4G (PC720-100DX4)		
	6885	J0M (PC750-P90)		
Aptiva	2144	68J (Aptiva520)、N40 (Aptiva550)		
	2159	B65 (AptivaB65)		
	2161	T95 (Aptiva T95)		
Green-PC	5538	Y		
端末	3477	型キーボード	I	
		型キーボード	J	
		型キーボード	K	

DOS/V ノート機をご使用の場合

DOS/V ノート機は機器接続の形態によって別売の分岐ケーブルが必要になったり、ディップスイッチを適切に設定する必要があります。その内容はDOS/V ノートの機種により異なり、3つのタイプに分類されます。以下ではそれぞれをタイプ1～タイプ3と表記し、接続形態とディップスイッチ設定の内容を説明します。

[接続機種一覧] のDOS/V ノート機の表は、スイッチの設定、ケーブルの種類に関する情報ではなくタイプに関する情報を掲載していますので、タイプ別の説明を確認のうえ接続形態に合わせたスイッチ設定、ケーブルでご使用下さい。

以下の表記で「マウス」はPS/2ポート（ミニDIN6Pin）のOADG仕様のマウスです。

タイプ1、タイプ2の表記で [分岐ケーブル]、 [テンキー] はサンワサプライ株式会社様の次の品番の製品です。

（尚、分岐ケーブルとテンキー の件のご質問もウェルキャット宛にご連絡下さい。）

表記	品名	品番
分岐ケーブル	PS/2スプリッター	KB-PSY02K2
テンキー	NOTE TEN	NT-DOSV3

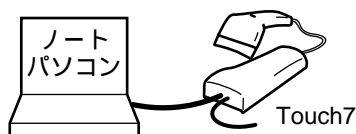
（2001年9月現在）

また、タイプ3で表記のテンキーはIBM「数値キーパッドIII」（品番：79F6408）です。

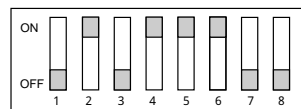
（タイプ3のテンキーの件のご質問もウェルキャット宛にご連絡下さい。）

DOS/V ノート (タイプ1)

Touch7 のみを接続



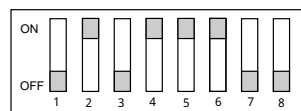
ケーブル : DSV
スイッチ設定 : M



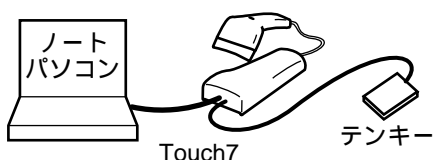
Touch7 + マウスを接続



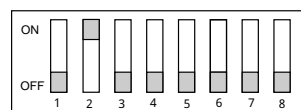
ケーブル : 分岐ケーブル + DSV
スイッチ設定 : M



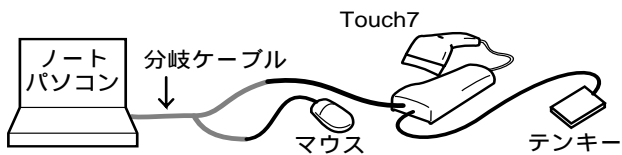
Touch7 + テンキーを接続



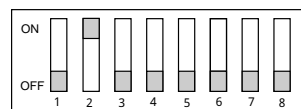
ケーブル : DSV
スイッチ設定 : G



Touch7 + テンキー + マウスを接続

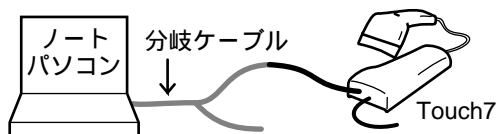


ケーブル : 分岐ケーブル + DSV
スイッチ設定 : G

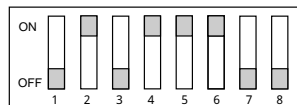


DOS/V ノート (タイプ2)

Touch7 のみを接続



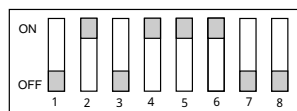
ケーブル : 分岐ケーブル + DSV
 スイッチ設定 : M



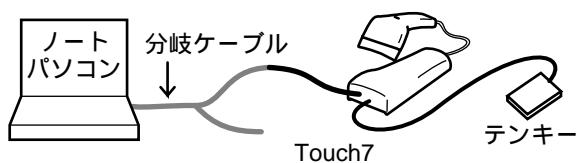
Touch7 + マウスを接続



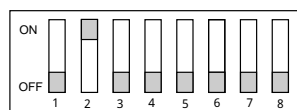
ケーブル : 分岐ケーブル + DSV
 スイッチ設定 : M



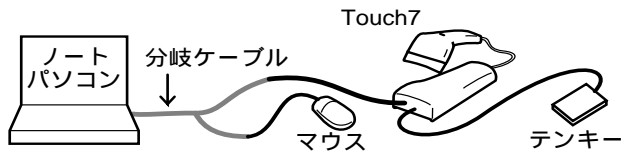
Touch7 + テンキーを接続



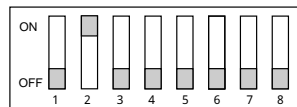
ケーブル : 分岐ケーブル + DSV
 スイッチ設定 : G



Touch7 + テンキー + マウスを接続



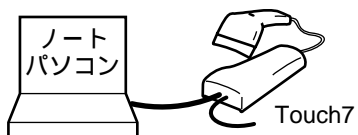
ケーブル : 分岐ケーブル + DSV
 スイッチ設定 : G



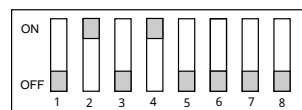
DOS/Vノート（タイプ3）

[旧式のIBM ThinkPadや旧式の日立FLORAノート機]

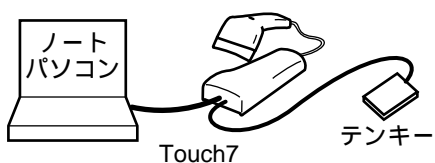
Touch7 のみを接続



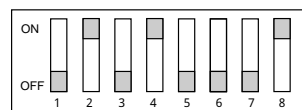
ケーブル : BMNT
スイッチ設定 : L-2



Touch7 + テンキーを接続



ケーブル : BMNT
スイッチ設定 : L-1



付録

DOS/V ノートブック (1999年以降)

PCメーカー	シリーズ名	機種名	型番	分類	備考
COMPAQ	ARMADA	M300	80400-298	タイプ1	
		M700	205862-298		
		E500	6475-29		
IBM	ThinkPad	235	2607-10J	タイプ2	
		240X	2609-51J		
		380Z	2635-HGJ		
		390X	2626-P0J		
		570E	2644-5B7		
		600E	2645-55J		
		600X	2645-5FJ		
		770X	9549-7AJ		
		i Series	2611-455		
日立	FLORA	210	PC-5NL02-ID5DE	タイプ2	
		220 CX	PC1NP8-E2A229110		
		220 MP	PC1NP5-E2A124610		
		220 TX	PC7NP4		
		270 SX	PC1NH8		
		270 GX	PC7NW2		
富士通	FMV	5233 NA/X	FMV1NA2XC6	タイプ2	
		5233 NP/W	FMV52NPW8		
		5233 NU/W	FMV1NU2WB6		
		6266 NU3/W	FMV3NU7WB6		
		6300 MC4/W	FMV4MCST6		
		6500-NU6/L	FMV6NU6LC2		
	FMV BIBLO	NE/36L	FMVNE36L2	タイプ2	
		MC30	FMVMC30		
		MF9-26	FMVMF9261		
		NE5/650R	FMVNE565R3	タイプ1	
		NE5/60C	FMVNE560C3		
		NE4/600D	FMVNE460D3		
東芝	DynaBook Satellite	2590X	PS259C404LA6	タイプ1	
		2140K45	PS214K45SLA6		
		2210SA50C/4CA	PA-SA50C4CA		
		4320	PS432P604LDB		
		4360	PA-SA70P5C8		
	DynaBook TECRA	8100	PA-TE75P4C8		
	DynaBook	DB60C/4RA	PX-DB60C4RA		

PCメーカー	シリーズ名	機種名	型番	分類	備考
日本電気	VersaPro NX		VA60HWX5ADAA	タイプ1	テンキー使用不可。 (アルファベット大文字が、立ち上がり時は小文字で出力される。 CAPS 切替後は正常)
	VersaPro R		VA50LRX5ADAA		
	VersaPro		VA80JWX5AEAB	タイプ1	
Panasonic		CF-L1EA		タイプ2	
SHARP	Mebius	PC-FJ40		タイプ2	
		PC-FJ120M			
		PC-CJ100L			

DOS/V ノートブック (旧式のIBM ThinkPadや旧式の日立FLORA ノート機)

PCメーカー	シリーズ名	型名	分類
IBM	ThinkPad	2432	タイプ3
		2437	
		2610	
		2610	
		2620	
		5523	
		8551	
		9545	タイプ3
		9552	
		1010	
		3010	
日立	FLORA	NA NT、NU	

この表に掲載の機種ではバーコードデータのアルファベットの入力是不可能です。

NEC PC-98**シリーズ

種別	シリーズ名	型名	スイッチ	ケーブル
デスクトップ	PC-9801	BA、BA2、BA3、BS2、BX、BX2、BX3 CS、DA、DS DX、ES、EX FA、FS、FX RA、RS、RX US	A	PC
		CV、E、F、M U、UF、UR、UV、UX VF、VM、VX	B	
	PC-9821	Ae、An、Ap、Ap2、Ap3、As、As2、As3 Be、Bf、Bp Cb、Cb2、Cb3、Cb10、Ce、Ce2、Cf、 Cr13、Cs2、Ct16、Ct20、Cu10、Cu16 Cx、Cx2、Cx3、Cx13 Ra20、Ra123 V7、V10、V13、V16、V20、V200 Xa、Xa7、Xa9、Xa10、Xa12、Xa13、 Xa16、Xc13 Xe、Xf、Xn、Xp、Xs、Xt、Xv13、Xv20	A	
		PC-98	RL XA、XL	
	PC-H98	S8、60、70、80、90、100、105	A	

付録

種別	シリーズ名	型名	スイッチ	ケーブル
ラップトップ 省電力	PC-9801	T (キーボードコネクタ)	A	PC
		LS、LX、T (テンキーコネクタ)	B	
		LV	C	
PC-9821	Ts、Es	A		
ノートブック	PC-9801	NA、NC、NS、NS/E、NS/L、NS/T	B	
		N、NS/A、NS/R、NV、NX/C	C	
	PC-9821	Nd、Ne、Ne2、Np、Ns	A	
		Na12、Na13、Na15、Nb7、Nb10、Ne3、Nf、Nm、Nx、NW150、Ls150	C	

EPSON PCシリーズ

種別	シリーズ名	型名	スイッチ	ケーブル
デスクトップ	PC-286	VJ	A	PC
		U、US、UX V、VE、VF、VG、VS、VX X	B	
	PC-386	G、GE、GS P、S	A	
		M、V、VR	B	
	PC-486	FE、FR、FS GF、GR、GRP、GRS HA、HG、HX ME、MR、MS、MU、MV P、SE、SR	A	
PC-586	RV			
ノートブック	PC-386	AR、ARW、W、WR		
		NAE、NW	B	
	PC-486	NAS NAU、NAV	A C	

富士通 FMシリーズ

種別	シリーズ名	型名	スイッチ	ケーブル
デスクトップ	FMR-50	CL1 FA、FD、FE1、FV、FX HD、HE1、HL3、HV、HX	D	FMR
	FMR-60	FD、FE1、FX HD、HE1、HE2、HE3、HX		
	FMR-70	CL1、FA5 HD、HE1、HL1、HL2、HX1、HX2、HX3 、 Ⅱ、 Ⅱ		
	FMR-80	AE1、AE3、HE2、HL2		
	FMR-250	L		
	FMR-280	A3、E、H、H3、L、L3、P、P3		
	FM-TOWNS	10F、20F、40H、80H MODEL1、MODEL2	E	
ラップトップ	FMR-50	LT、LX、 LX	E	FMRNB
		TX		
FM-TOWNSⅡ	CX、CX100 HB、HG100、HR20 MA、ME、MX UR、UX、UX20	D		
ノートブック	FMR-50	NB、NBX、NL	F	

Apple Macintoshシリーズ

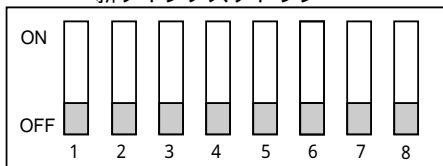
シリーズ名	型名 / 入力モード	スイッチ	ケーブル
Power Mac	JISキーボード ローマ字JIS	N-2	MAC
	JISキーボード ことえり、英語モード	N-1	
Macintosh (旧)	ADB対応機種のみ接続可能		

ディップスイッチ設定一覧

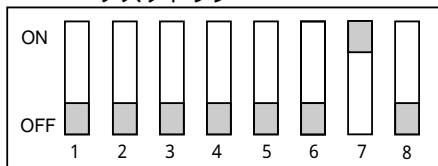
ディップスイッチの設定の種類は次の通りです。「接続機種一覧」で接続するコンピュータとスイッチ設定の種類をご確認のうえ、ディップスイッチを設定して下さい。

出荷時設定は、(A)です。

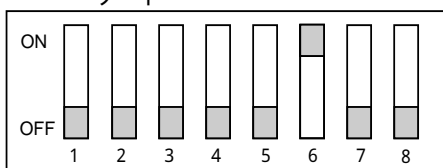
(A) NEC PC-9821系、PC-9801系
新タイプデスクトップ



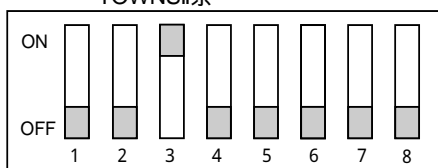
(B) NEC PC-9801系旧タイプ
デスクトップ



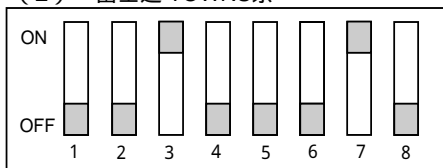
(C) NEC PC-9821系、PC-9801系
ノート



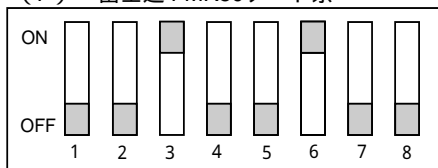
(D) 富士通 FMRデスクトップ、
TOWNSII系



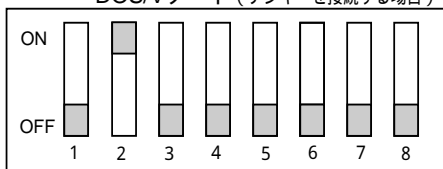
(E) 富士通 TOWNS系



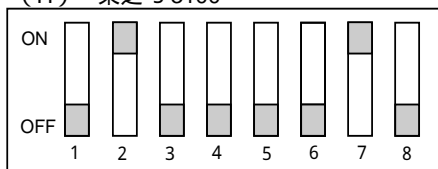
(F) 富士通 FMR50ノート系



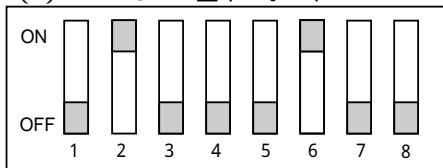
(G) DOS/Vデスクトップ
DOS/Vノート(テンキーを接続する場合)



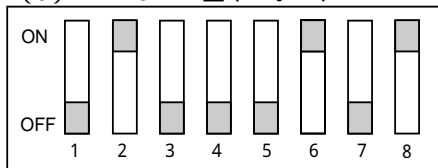
(H) 東芝 J3100



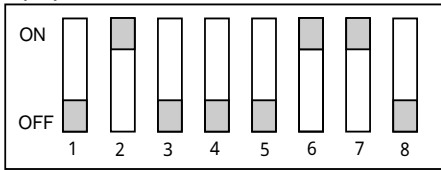
(I) IBM3477 I型キーボード



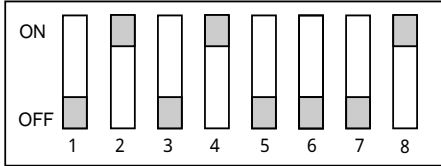
(J) IBM3477 II型キーボード



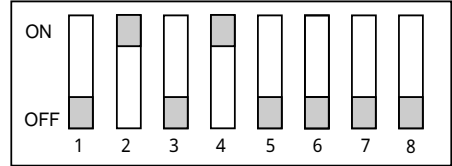
(K) IBM3477 V型キーボード



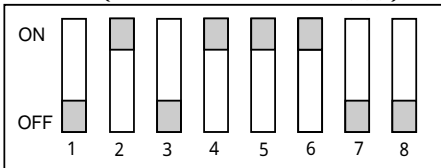
(L-1) 旧式のIBM ThinkPad、日立FLORAノート
(テンキーを接続する場合)



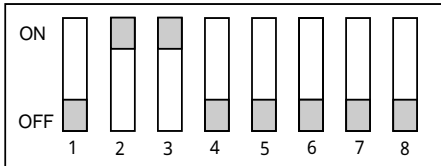
(L-2) 旧式のIBM ThinkPad、日立FLORAノート
(テンキーを接続しない場合)



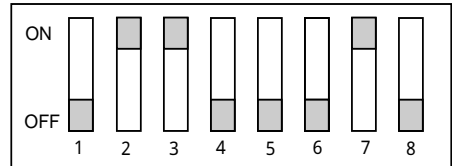
(M) DOS/Vノート
(テンキーを接続しない場合)



(N-1) Macintosh系
標準、拡張キーボード使用



(N-2) Macintosh系
JISキーボード使用



このマニュアルの著作権は株式会社ウェルキャットにあります。
このマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製、転載する
ことをお断りします。

Touch7 ユーザーズマニュアル

2002年7月 第18版 発行

株式会社ウェルキャット

本 社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜1-17-12 IWATAビル

TEL : 045-474-9800 FAX : 045-474-9815

大阪営業所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-7-19 第7新大阪ビル

TEL : 06-6307-0502 FAX : 06-6307-0504

Homepage <http://www.welcat.co.jp/>

E-mail info@welcat.co.jp

Copyright (C) 1994 Welcat Inc.

落丁、乱丁はお取り替え致します。

M18T7